(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2023年4月27日(27.04.2023)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2023/067756 A1

(51) 国際特許分類:
A47J 41/02 (2006.01) *B65D 47/24* (2006.01)

(21) 国際出願番号： PCT/JP2021/038919

(22) 国際出願日： 2021年10月21日(21.10.2021)

(25) 国際出願の言語： 日本語

(26) 国際公開の言語： 日本語

(71) 出願人: 株式会社スノーピーク (**SNOW PEAK, INC.**) [JP/JP]; 〒9550147 新潟県三条市中野原４５６番地 Niigata (JP).

(72) 発明者: 山井 梨沙 (**YAMAI Lisa**); 〒9550147 新潟県三条市中野原４５６番地 株式会社スノーピーク内 Niigata (JP).

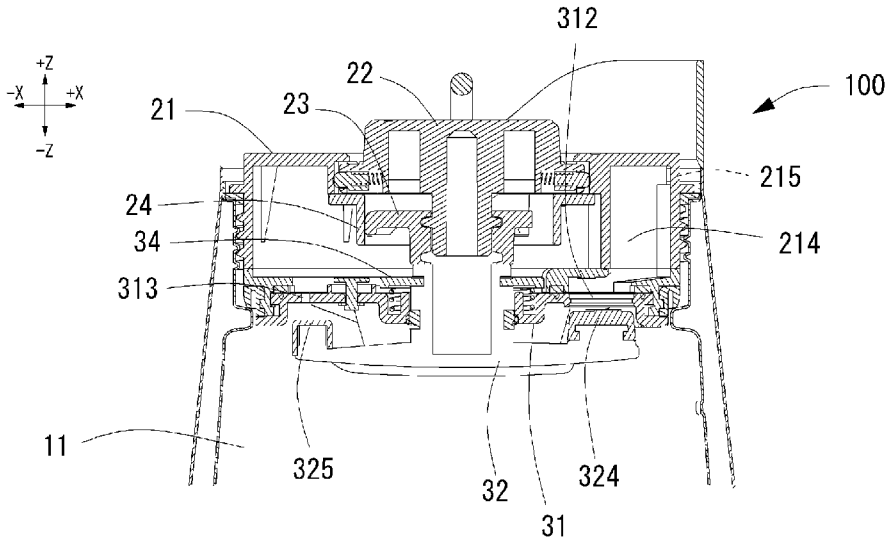
(74) 代理人: 斉藤 達也 (**SAITO TATSUYA**); 〒1070052 東京都港区赤坂１－３－５赤坂アビタシオンビル６Ｆ インスパイア国際特許事務所 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,

WO 2023/067756 A1

(54) Title: BEVERAGE CONTAINER AND LID PART

(54) 発明の名称： 飲料容器、及び蓋部



(57) Abstract: Provided are a beverage container and a lid part that enable or disable discharge of a beverage in accordance with the intention of a user. The present invention comprises a body part for accommodating a beverage, and a lid part provided to an upper section of the body part. The lid part is provided with a beverage opening section 312 for discharging the beverage accommodated in the body part 101, and a beverage opening/closing-part-side sealing member 324 for opening and closing the beverage opening section 312 from the lower side thereof. The lid part is furthermore provided with: an air opening section 313 through which air is taken into the interior of the body part when the beverage accommodated in the body part is discharged, the air opening section 313 being provided separately from the beverage opening section 312; and an air opening/closing-part-side sealing member 325 for opening and closing the air opening section 313 from the lower side thereof. The beverage opening/closing-part-side sealing member 324 is capable of moving between a

［続葉有］

ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告(条約第21条(3))

beverage-opening/closing-member-side first position and a beverage-opening/closing-member-side second position.

(57) 要約:ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にする飲料容器、及び蓋部を提供すること。 飲料を収容する本体部と、本体部の上部に設けられる蓋部と、を備え、蓋部は、本体部１０１に収容されている飲料を排出する飲料用開口部３１２と、飲料用開口部３１２を当該飲料用開口部３１２の下側から開閉する飲料用開閉部側封止材３２４と、を備え、蓋部は、本体部に収容されている飲料を排出する場合に、本体部の内部に外気を取り込む気体用開口部３１３であって、飲料用開口部３１２とは別に設けられている気体用開口部３１３と、気体用開口部３１３を当該気体用開口部３１３の下側から開閉する気体用開閉部側封止材３２５と、を更に備え、飲料用開閉部側封止材３２４は、飲料用開閉部材側第１位置と、飲料用開閉部材側第２位置とに移動可能である。

明　細　書

発明の名称 ： 飲料容器、及び蓋部

技術分野

[0001]　本発明は、飲料容器、及び蓋部に関する。

背景技術

[0002]　従来、飲料を収容する飲料容器が知れていた（例えば、特許文献１参照）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２０２１－１０６８６３号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004]　ところで、飲料容器に収容されている飲料を、ユーザの意図に即して排出可能又は排出不可能にするための技術が要望されていた。

[0005]　本発明は上記問題に鑑みてなされたもので、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にする飲料容器、及び蓋部を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0006]　上述した課題を解決し、目的を達成するために、請求項１に記載の飲料容器は、飲料を収容する収容部と、前記収容部の上部に設けられる蓋部と、を備え、前記蓋部は、前記収容部に収容されている前記飲料を排出する飲料用開口部と、前記飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材と、を備える。

[0007]　また、請求項２に記載の飲料容器は、請求項１に記載の飲料容器において、前記蓋部は、前記収容部に収容されている前記飲料を排出する場合に、前記収容部の内部に外気を取り込む気体用開口部であって、前記飲料用開口部とは別に設けられている前記気体用開口部と、前記気体用開口部を当該気体

用開口部の下側から開閉する気体用開閉部材と、を更に備える。

[0008] また、請求項３に記載の飲料容器は、請求項２に記載の飲料容器において、前記飲料用開閉部材は、前記飲料用開口部を塞いで閉じる飲料用開閉部材側第１位置と、前記飲料用開口部を空けて開く飲料用開閉部材側第２位置とに移動可能であり、前記気体用開閉部材は、前記気体用開口部を塞いで閉じる気体用開閉部材側第１位置と、前記気体用開口部を空けて開く気体用開閉部材側第２位置とに移動可能であり、前記蓋部は、前記飲料用開閉部材及び前記気体用開閉部材を相互に同期させて移動させる移動部材、を備え、前記移動部材は、前記飲料用開閉部材を前記飲料用開閉部材側第１位置に移動させ、且つ、前記気体用開閉部材を前記気体用開閉部材側第１位置に移動させ、あるいは、前記飲料用開閉部材を前記飲料用開閉部材側第２位置に移動させ、且つ、前記気体用開閉部材を前記気体用開閉部材側第２位置に移動させる。

[0009] また、請求項４に記載の飲料容器は、請求項１から３の何れか一項に記載の飲料容器において、前記蓋部は、前記収容部内を減圧するための減圧手段、を更に備える。

[0010] また、請求項５に記載の飲料容器は、請求項１から４の何れか一項に記載の飲料容器において、前記飲料は、発泡性の飲料である。

[0011] また、請求項６に記載の蓋部は、飲料を収容する収容部と、前記収容部の上部に設けられる蓋部と、を備える飲料容器の前記蓋部であって、前記収容部に収容されている前記飲料を排出する飲料用開口部と、前記飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材と、を備える。

発明の効果

[0012] 請求項１に記載の飲料容器、及び請求項６に記載の蓋部によれば、飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材を備えることにより、例えば、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にすることが可能となる。

[0013] 請求項２に記載の飲料容器によれば、気体用開口部を当該気体用開口部の

下側から開閉する気体用開閉部材を備えることにより、例えば、気体用開口部を介して飲料が排出されることを防止することが可能となる。

[0014] 請求項３に記載の飲料容器によれば、飲料用開閉部材を飲料用開閉部材側第１位置に移動させ、且つ、気体用開閉部材を気体用開閉部材側第１位置に移動させ、あるいは、飲料用開閉部材を飲料用開閉部材側第２位置に移動させ、且つ、気体用開閉部材を気体用開閉部材側第２位置に移動させることにより、例えば、飲料を排出する際に外気を取り込むことができるので、飲料をスムーズに排出することが可能となる。また、例えば、両開口部を閉じることができるので、飲料が排出されることを確実に防止することが可能となる。

[0015] 請求項４に記載の飲料容器によれば、減圧手段を備えることにより、例えば、収容部内の圧力が上昇し続けることを防止することができるので、安全性を維持することが可能となる。

[0016] 請求項５に記載の飲料容器によれば、飲料は発泡性の飲料であることにより、例えば、ユーザの意図に即して発泡性の飲料を排出可能又は排出不可能にすることが可能となる。特に、例えば、飲料の発泡により収容部内の圧力が上昇した場合、当該圧力に基づいて、ユーザの意図に反して飲料用開閉部材がずれて飲料用開口部が開くことを防止することができるので、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にすることが確実に可能となる。

図面の簡単な説明

[0017] [図1]飲料容器の斜視図である。

[図2]飲料容器の平面図である。

[図3]飲料容器の側面図である。

[図4]飲料容器の分解斜視図である。

[図5]飲料容器の一部の断面図である。

[図6]飲料容器の一部の断面図である。

[図7]上側から見た蓋部の斜視図である。

[図8]下側から見た蓋部の斜視図である。

[図9]蓋部の正面図である。

[図10]蓋部の平面図である。

[図11]蓋部の底面図である。

[図12]蓋部の側面図である。

[図13]蓋部の分解斜視図である。

[図14]上側から見た第１部分の斜視図である。

[図15]下側から見た第１部分の斜視図である。

[図16]第１部分の底面図である。

[図17]上側から見た第１部分の分解斜視図である。

[図18]下側から見た第１部分の分解斜視図である。

[図19]上側から見た本体部材の斜視図である。

[図20]下側から見た本体部材の斜視図である。

[図21]本体部材の底面図である。

[図22]上側から見た操作部材の斜視図である。

[図23]下側から見た操作部材の斜視図である。

[図24]操作部材の平面図である。

[図25]上側から見た調整部材の斜視図である。

[図26]下側から見た調整部材の斜視図である。

[図27]調整部材の平面図である。

[図28]上側から見た案内部材の斜視図である。

[図29]下側から見た案内部材の斜視図である。

[図30]案内部材の平面図である。

[図31]下側から見た連結部材の斜視図である。

[図32]上側から見た第２部分の斜視図である。

[図33]下側から見た第２部分の斜視図である。

[図34]第２部分の正面図である。

[図35]上側から見た第２部分の分解斜視図である。

[図36]下側から見た第２部分の分解斜視図である。

[図37]上側から見た仕切部材の斜視図である。

[図38]下側から見た仕切部材の斜視図である。

[図39]上側から見た移動用部材の斜視図である。

[図40]下側から見た移動用部材の斜視図である。

[図41]移動用部材の側面図である。

[図42]飲料容器の一部の断面図である。

[図43]飲料容器の一部の断面図である。

発明を実施するための形態

[0018] 以下に、本発明に係る飲料容器、及び蓋部の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。なお、実施の形態によりこの発明が限定されるものではない。

[0019] 〔実施の形態の基本的概念〕

まずは、実施の形態の基本的概念について説明する。実施の形態は、概略的に、飲料容器、及び蓋部に関するものである。

[0020] 「飲料容器」とは、飲料を収容する容器である。「飲料」とは、飲むためのものであり、具体的には、飲むための液体を含む概念である。飲料容器に収容される飲料は任意であり、例えば、発泡性の飲料又はその他の飲料（発泡しない飲料を含む）を含む概念であり、一例としては、炭酸飲料（ビール等を含む）、お茶、水、お湯等を含む概念である。

[0021] そして、以下に示す実施の形態では、「飲料」が炭酸飲料（つまり、発泡性の飲料）である場合について説明する。

[0022] ［実施の形態の具体的内容］

次に、実施の形態の具体的内容について説明する。

[0023] （構成）

まず、本実施の形態の飲料容器の構成について説明する。図１は、飲料容器の斜視図であり、図２は、飲料容器の平面図である、図３は、飲料容器の側面図であり、図４は、飲料容器の分解斜視図であり、図５及び図６は、飲

料容器の一部の断面図である。

[0024] なお、図５及び図６は、図２のＡ－Ａ断面の断面図であり、図５は、後述する飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３を閉じた状態が図示されており、また、図６は、これらの各開口部を開いた状態が図示されている。なお、図５及び図６において、後述する移動用部材３２については、一部のハッチングが省略されている。また、図５及び図６においては、図１の把手１３の図示が省略されている。

[0025] なお、各図では、相互に同様な構成の複数の要素には、一部の要素に代表して符号を付して説明する場合もある。また、各図では、Ｘ－Ｙ－Ｚ軸は相互に直交していることとし、Ｚ軸が、鉛直方向を示しており、Ｘ軸及びＹ軸が、水平方向を示していることとして説明する。また、＋Ｚ方向を上側（上部、平面）とも称し、－Ｚ方向を下側（下部、底面）とも称する。また、＋Ｘ方向を正面側とも称し、－Ｘ方向を背面側とも称する。また、Ｙ軸方向を側面とも称する。

[0026]（構成）

図１の飲料容器１００は、内部に飲料（本実施の形態では、炭酸飲料）を収容する容器であり、例えば、図４の本体部１０１、及び蓋部１０２を備える。

[0027]（構成－本体部）

本体部１０１は、飲料を収容する収容部であり、具体的には、飲料容器１００の本体となる部分である。本体部１０１は、例えば、全体としては平面視で円形となっており、また、ステンレス等の金属製の真空断熱構造となっている部分を含む。なお、真空断熱構造とは、例えば、保温力又は保冷力を高めるために、内外を区画する壁を二重化した構造等を含む概念である。

[0028] 本体部１０１は、例えば、図５の中空部１１、図１の注ぎ口１２、把手１３、本体部側開口部１４、及び本体部側係合部１５を備える。

[0029] 図５の中空部１１は、本体部１０１の内部に形成されている空間であり、飲料を収容する空間である。

[0030] 図１の注ぎ口１２は、飲料を注ぐための部分であり、例えば、図３に示すように、把手１３とは反対側の正面側（＋Ｘ方向）に設けられている部分である。

[0031] 図１の把手１３は、ユーザが飲料容器１００を保持するための持ち手となる部分であり、例えば、図３に示すように、注ぎ口１２とは反対側の背面側（－Ｘ方向）に設けられている部分である。

[0032] 図４の本体部側開口部１４は、本体部１０１に対して飲料を入れるための開口部であり、例えば、平面視で円形となっており上側（＋Ｚ方向）において開けられた開口部であり、図５の中空部１１に連通している。この本体部側開口部１４には、蓋部１０２が着脱可能に取り付けられる。

[0033] 図１の本体部側係合部１５は、本体部１０１に対して蓋部１０２を取り付けるための構造であり、例えば、図４に示すように、本体部側開口部１４の内面に設けられているネジ溝である。

[0034]（構成－蓋部）

図７は、上側から見た蓋部の斜視図であり、図８は、下側から見た蓋部の斜視図であり、図９は、蓋部の正面図であり、図１０は、蓋部の平面図であり、図１１は、蓋部の底面図であり、図１２は、蓋部の側面図であり、図１３は、蓋部の分解斜視図である。

[0035] 図４の蓋部１０２は、本体部１０１の上部（＋Ｚ方向）に設けられるものであり、例えば、本体部１０１に収容されている飲料を排出可能又は排出不可能にするための機構を備えるものである。

[0036] すなわち、蓋部１０２は、例えば、蓋部１０２の下部（－Ｚ方向）に設けられている飲料用開口部３１２（図６）を開くことにより、本体部１０１に収容されている飲料を、排出口２１５（図６及び図８）を介して外部に排出可能とする。なお、この場合、気体用開口部３１３（図６）が開かれて、当該気体用開口部３１３を介して、外気が本体部１０１内に取り込まれる。

[0037] また、蓋部１０２は、例えば、蓋部１０２の下部（－Ｚ方向）に設けられている飲料用開口部３１２（図６）を閉じることにより、本体部１０１に収

容されている飲料を、排出不可能とする。なお、この場合、気体用開口部３１３（図５）も閉じられる。

[0038] 図７～図１２の蓋部１０２は、例えば、平面視で円形となっており、また、樹脂又は金属等で形成されている。蓋部１０２は、例えば、図１３に示すように、第１部分１０２Ａ、及び第２部分１０２Ｂを備える。

[0039]（構成－第１部分）

図１４は、上側から見た第１部分の斜視図であり、図１５は、下側から見た第１部分の斜視図であり、図１６は、第１部分の底面図であり、図１７は、上側から見た第１部分の分解斜視図であり、図１８は、下側から見た第１部分の分解斜視図である。

[0040] 図１３の第１部分１０２Ａは、蓋部１０２における上側（＋Ｘ方向）の一部を形成する部分であり、例えば、第２部分１０２Ｂに対して着脱可能となっている部分である。第１部分１０２Ａは、例えば、図１７及び図１８に示すように、本体部材２１、操作部材２２、調整部材２３、案内部材２４、及び連結部材２５を備える。

[0041]（構成－第１部分－本体部材）

図１９は、上側から見た本体部材の斜視図であり、図２０は、下側から見た本体部材の斜視図であり、図２１は、本体部材の底面図である。

[0042] 図１７～図２１の本体部材２１は、蓋部１０２の外形を形成する部材であり、また、蓋部１０２の各種構成要素を収容する部材である。本体部材２１は、例えば、平面視で円形となっている部材であり、また、全体として樹脂等で形成されている部材である。本体部材２１は、例えば、図１９の上部把手２１０、図２０の蓋部側係合部２１１、開口部２１２、位置決め凹部２１３、流路部２１４、排出口２１５、及び本体部材側封止材２１６を備える。

[0043]（構成－第１部分－本体部材－上部把手）

図１９の上部把手２１０は、ユーザが蓋部１０２を保持するための金属製の把手であり、例えば、本体部材２１の所定位置に対して任意の手法（例えば、ネジ止めする手法等）で取り付けられている。

[0044]（構成－第１部分－本体部材－蓋部側係合部）

図１９及び図２０の蓋部側係合部２１１は、本体部１０１に対して蓋部１０２を取り付けるための構造であり、例えば、図４の本体部側係合部１５と係合する構造である。蓋部側係合部２１１は、例えば、本体部材２１の外面に設けられているネジ山である。

[0045]（構成－第１部分－本体部材－開口部）

図１９～図２１の開口部２１２は、操作部材２２（図１７）の一部を露出させるための開口部であり、例えば、本体部材２１における中央付近に設けられている円形の開口部である。

[0046]（構成－第１部分－本体部材－位置決め凹部）

図２０の位置決め凹部２１３は、操作部材２２（図１７）の本体部材２１に対する回動位置を位置決めするための凹部であり、例えば、図２０に示すように、本体部材２１の内壁の一部に設けられている凹部である。なお、図２０では、位置決め凹部２１３が２個図示されているが、実際には、水平方向における本体部材２１の中心を基準として、図２０の２個の位置決め凹部２１３の反対側の位置にも２個の位置決め凹部が設けられており、合計４個の位置決め凹部が設けられている。

[0047] なお、操作部材２２の回動位置を位置決めするとは、例えば、操作部材２２を回動させる角度に関して位置決めすることを示す概念であり、本実施の形態では、操作部材２２を９０度回動させた位置に位置決めすることを示していることとする。

[0048]（構成－第１部分－本体部材－流路部）

図２０の流路部２１４は、飲料を排出するための流路となる空間であり、例えば、排出口２１５に通じている。

[0049]（構成－第１部分－本体部材－排出口）

図２０の排出口２１５は、飲料を排出するための貫通孔であり、例えば、本体部材２１における蓋部側係合部２１１の上側（＋Ｚ方向）に設けられている。

[0050]（構成－第１部分－本体部材－本体部材側封止材）

図２０の本体部材側封止材２１６は、水密及び気密を維持するためのパッキン又はシールであり、例えば、排出口２１５から排出された飲料が下側（－Ｚ方向）の本体部１０１（図４）側に漏れることを防止するためのものである。本体部材側封止材２１６は、例えば、本体部材２１の外面に沿って設けられている円環状のものある。

[0051] なお、本実施の形態で説明する各封止材については、飲料容器１００において想定外の飲料又は気体の漏れを防止できるように構成されている限りにおいて任意に構成することができ、材質、形状、サイズ、又は個数を任意に変更してもよい。また、各封止材については、ゴムを用いて形成してもよいし、あるいは、他の任意の材料を用いて形成してもよい。

[0052]（構成－第１部分－操作部材）

図２２は、上側から見た操作部材の斜視図であり、図２３は、下側から見た操作部材の斜視図であり、図２４は、操作部材の平面図である。

[0053] 図１７～図１８、及び図２２～図２４の操作部材２２は、ユーザの操作によって回動された場合に、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３（図６）を開閉して、飲料を排出可能又は排出不可能とするための部材である。操作部材２２は、例えば、本体部材２１に収容される部材であり、樹脂等で形成されている部材である。操作部材２２は、例えば、図２２のつまみ部２２１、図２３の中央側突出部２２２、及び位置決め突出部２２３を備える。

[0054]（構成－第１部分－操作部材－つまみ部）

図２２及び図２４のつまみ部２２１は、ユーザによって把持されて、回動させるための外力が当該ユーザから付与される部分であり、例えば、図１９の本体部材２１の開口部２１２を介して上側（＋Ｚ方向）に向かって露出する部分である。

[0055]（構成－第１部分－操作部材－中央側突出部）

図２３の中央側突出部２２２は、下側（－Ｚ方向）に向かって突出している部分であり、例えば、外面にネジ山２２２Ａが設けられている。ネジ山２

２２Ａは、操作部材２２を回動させた場合に、操作部材２２の中央側突出部２２２と螺合する調整部材２３（後述）を上側（＋Ｚ方向）又は下側（－Ｚ方向）に移動させることが可能となるように、螺旋状に設けられている。

[0056]（構成－第１部分－操作部材－位置決め突出部）

図２２～図２４の位置決め突出部２２３は、操作部材２２の本体部材２１（図２０）に対する回動位置を位置決めするための部分であり、例えば、図２３に示すように、所定の付勢手段（例えば、圧縮させた場合に当該圧縮に基づいて付勢力を生じる圧縮コイルバネ等）を用いて、水平方向おいて操作部材２２の外側に向かって付勢されている部分である。位置決め突出部２２３は、操作部材２２が本体部材２１に収容された場合に、本体部材２１における位置決め凹部２１３（図２０）が設けられている内周壁と対向するように構成されている。

[0057] そして、例えば、操作部材２２を、時計回り又は反時計回りの一方回りに９０度回動させた場合、位置決め突出部２２３が位置決め凹部２１３と対向して突出し、位置決め突出部２２３の先端部が位置決め凹部２１３内に設けられる。よって、操作部材２２が、当該回動された位置に位置決めされる。

[0058] また、例えば、操作部材２２を、時計回り又は反時計回りの他方回り（「一方回り」の反対回り）に時計回りに９０度回動させた場合、位置決め突出部２２３が位置決め凹部２１３（回動前に位置決め突出部２２３が設けられていた位置決め凹部２１３の隣に設けられている位置決め凹部２１３）と対向して突出し、位置決め突出部２２３の先端部が位置決め凹部２１３内に設けられる。よって、操作部材２２が、当該回動された位置に位置決めされる。

[0059] このようにして、操作部材２２については、本体部材２１に対して９０度回動させて位置決めすることが可能となる。

[0060]（構成－第１部分－調整部材）

図２５は、上側から見た調整部材の斜視図であり、図２６は、下側から見た調整部材の斜視図であり、図２７は、調整部材の平面図である。

[0061] 図１７～図１８、及び図２５～図２７の調整部材２３は、操作部材２２が回動された場合に上下動して、移動用部材３２を上下動させるための部材である。調整部材２３は、例えば、本体部材２１に収容される部材であり、樹脂等で形成されている部材である。調整部材２３は、例えば、図２６の開口部２３１、中央側突出部２３２、及び案内突出部２３３を備える。なお、「上下動」とは、例えば、上側（＋Ｚ方向）又は下側（－Ｚ方向）に向かって移動することを示すものと解釈してもよい。

[0062] （構成－第１部分－調整部材－開口部）

図２５～図２７の開口部２３１は、操作部材２２の中央側突出部２２２（図２３）が通される開口部であり、例えば、調整部材２３の中央側突出部２３２の内部空間に連通している。

[0063] （構成－第１部分－調整部材－中央側突出部）

図２６の中央側突出部２３２は、下側（－Ｚ方向）に向かって突出している部分であり、例えば、中空部が設けられており、当該中空部の内面にネジ溝２３２Ａが設けられている。ネジ溝２３２Ａは、操作部材２２（図２３）の中央側突出部２２２のネジ山２２２Ａと螺合するように、螺旋状に設けられている。

[0064] （構成－第１部分－調整部材－案内突出部）

図２５～図２７の案内突出部２３３は、調整部材２３の回動を防止しつつ上下動させるための部分であり、例えば、水平方向における調整部材２３の中心側から外側に向かって突出している部分である。

[0065] （構成－第１部分－案内部材）

図２８は、上側から見た案内部材の斜視図であり、図２９は、下側から見た案内部材の斜視図であり、図３０は、案内部材の平面図である。

[0066] 図１７～図１８、及び図２８～図３０の案内部材２４は、操作部材２２及び調整部材２３を本体部材２１に取り付けるための部材であり、また、調整部材２３の上下動を案内する部材である。案内部材２４は、例えば、本体部材２１に収容される部材であり、樹脂等で形成されている部材である。案内

部材２４は、例えば、図２８の開口部２４１、中央側突出部２４２、及び図２９のネジ孔２４３を備える。

[0067]（構成－第１部分－案内部材－開口部）

図２８～図３０の開口部２４１は、調整部材２３の少なくとも一部が設けられる開口部であり、例えば、案内部材２４における中央付近に設けられている円形の開口部である。

[0068]（構成－第１部分－案内部材－中央側突出部）

図２８及び図２９の中央側突出部２４２は、下側（－Ｚ方向）に向かって突出している部分であり、例えば、中空部が設けられている。この中央側突出部２４２の中空部は、例えば、調整部材２３が設けられる空間であり、内面に案内凹部２４２Ａが設けられている。案内凹部２４２Ａは、調整部材２３の回動を防止しつつ上下動させるための凹部であり、例えば、調整部材２３の案内突出部２３３（図２５）の先端部が設けられる凹部である。

[0069]（構成－第１部分－案内部材－ネジ孔）

図２９及び図３０のネジ孔２４３は、案内部材２４を本体部材２１に取り付けて固定するためのネジ孔であり、例えば、図１７及び図１８の固定ネジ９０１が螺合されるネジ孔である。

[0070]（構成－第１部分－連結部材）

図３１は、下側から見た連結部材の斜視図である。

[0071] 図１７～図１８、及び図３１の連結部材２５は、蓋部１０２の第１部分１０２Ａ（図１３）を、蓋部１０２の第２部分１０２Ｂに対して着脱可能に取り付けて連結する部材である。連結部材２５は、例えば、平面視で円形となっている部材であり、また、全体として樹脂等で形成されている部材である。連結部材２５は、例えば、図３１の第１開口部２５１、第２開口部２５２、連結部材側第１封止材２５３、及び連結部材側第２封止材２５４を備える。

[0072]（構成－第１部分－連結部材－第１開口部）

図３１の第１開口部２５１は、連結部材２５における中央付近に設けられ

ている開口部であり、例えば、第２開口部２５２の隣に設けられている開口部である。

[0073]（構成－第１部分－連結部材－第２開口部）

図３１の第２開口部２５２は、飲料を排出するための開口部であり、例えば、第１開口部２５１に対して水密が維持されている開口部である。

[0074]（構成－第１部分－連結部材－連結部材側第１封止材）

図３１の連結部材側第１封止材２５３は、水密及び気密を維持するためのパッキン又はシールであり、例えば、本体部１０１の中空部１１（図５）に収容された飲料及び気体が蓋部１０２と本体部１０１の間から漏れることを防止するためのものである。連結部材側第１封止材２５３は、例えば、連結部材２５の下側の（－Ｚ方向）外周縁に沿って設けられている円環状のものある。

[0075]（構成－第１部分－連結部材－連結部材側第２封止材）

図３１の連結部材側第２封止材２５４は、水密及び気密を維持するためのパッキン又はシールであり、例えば、第２開口部２５２側に排出される飲料が第２開口部２５２の外側に漏れることを防止するためのものである。連結部材側第２封止材２５４は、例えば、第１開口部２５１及び第２開口部２５２の外周縁における下部（－Ｚ方向）に設けられているものである。

[0076]（構成－第２部分）

図３２は、上側から見た第２部分の斜視図であり、図３３は、下側から見た第２部分の斜視図であり、図３４は、第２部分の正面図であり、図３５は、上側から見た第２部分の分解斜視図であり、図３６は、下側から見た第２部分の分解斜視図である。

[0077] 図１３の第２部分１０２Ｂは、蓋部１０２における下側（＋Ｘ方向）の一部を形成する部分であり、例えば、第１部分１０２Ａに対して着脱可能となっている部分である。第２部分１０２Ｂは、例えば、図３５及び図３６に示すように、仕切部材３１、移動用部材３２、付勢部材３３、及び取付部材３４を備える。

[0078] （構成－第２部分－仕切部材）

図３７は、上側から見た仕切部材の斜視図であり、図３８は、下側から見た仕切部材の斜視図である。

[0079] 図３７及び図３８の仕切部材３１は、図４の本体部側開口部１４において、本体部１０１の内外を隔てる部材である。仕切部材３１は、例えば、平面視で円形となっている部材であり、また、全体として樹脂等で形成されている板状の部材である。仕切部材３１は、例えば、図３７の中央側開口部３１１、飲料用開口部３１２、気体用開口部３１３、減圧弁３１４、及び図３８の案内部３１５を備える。

[0080] （構成－第２部分－仕切部材－中央側開口部）

図３７及び図３８の中央側開口部３１１は、移動用部材３２の中央側突出部３２２（後述）が通される開口部であり、例えば、水平方向における仕切部材３１の中心に設けられている開口部である。

[0081] （構成－第２部分－仕切部材－飲料用開口部）

図３７及び図３８の飲料用開口部３１２は、飲料を本体部１０１から排出するための開口部であり、例えば、所定径の円形の開口部である。

[0082] （構成－第２部分－仕切部材－気体用開口部）

図３７及び図３８の気体用開口部３１３は、外気を本体部１０１に取り込むための開口部である。本実施の形態では、気体用開口部３１３としては、図３７及び図３８に図示されているように、水平方向における仕切部材３１の中心（つまり、中央側開口部３１１）を基準として、飲料用開口部３１２の設置位置の反対側の位置に設けられている。また、気体用開口部３１３としては、例えば、飲料用開口部３１２よりも小径の３個の円形の開口部が設けられている。

[0083] なお、この気体用開口部３１３及び飲料用開口部３１２の構成は任意に変更することができ、例えば、開口部の形状、サイズ、個数、及び設置位置等を任意に変更してもよい。

[0084] （構成－第２部分－仕切部材－減圧弁）

図３７及び図３８の減圧弁３１４は、本体部１０１内を減圧するための減圧手段である。なお、本体部１０１の中空部１１（図５）は、水密及び気密が維持されており、当該中空部１１に飲料である炭酸飲料を収容した場合、炭酸飲料の発泡によって中空部１１内の圧力が上昇することになるが、減圧弁３１４が設けられているので、中空部１１内の圧力を適宜減圧して所定圧力以下又は所定圧力に維持することが可能となる。

[0085] この減圧弁３１４の種類や構成は任意であるが、例えば、中空部１１の内圧が所定圧力を超えた場合に開口又は隙間を開いて減圧した後に当該開口又は隙間を閉じる動作を行うように、公知の減圧弁の技術を用いて構成することができる。

[0086] （構成－第２部分－仕切部材－案内部）

図３８の案内部３１５は、移動用部材３２の上下動を案内するための部分であり、例えば、中央側開口部３１１の両側から下側（－Ｚ方向）に向かって突出している部分である。

[0087] （構成－第２部分－移動用部材）

図３９は、上側から見た移動用部材の斜視図であり、図４０は、下側から見た移動用部材の斜視図であり、図４１は、移動用部材の側面図である。

[0088] 図３９及び図４０の移動用部材３２は、飲料用開閉部側封止材３２４及び気体用開閉部側封止材３２５を上下動させて、当該各封止材によって、図６の飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３を開閉する部材であり、例えば、全体として樹脂等で形成されて部材である。移動用部材３２は、図８に示すように、一部が蓋部１０２の下側（－Ｚ方向）に露出しているものである。移動用部材３２は、例えば、図３９の本体部３２１、中央側突出部３２２、固定片３２３、飲料用開閉部側封止材３２４、気体用開閉部側封止材３２５、及び突出部側封止材３２６を備える。

[0089] （構成－第２部分－移動用部材－本体部）

図３９～図４１の本体部３２１は、水平方向に延在している部分である。

[0090] （構成－第２部分－移動用部材－中央側突出部）

図３９～図４１の中央側突出部３２２は、水平方向における本体部３２１の中心から上側（＋Ｚ方向）に向かって突出している部分である。

[0091]（構成－第２部分－移動用部材－固定片）

図３９～図４１の固定片３２３は、図３２に示すように、付勢部材３３によって上側（＋Ｚ方向）に向かって付勢されて押される取付部材３４が、固定されて取り付けられる部分である。

[0092]（構成－第２部分－移動用部材－飲料用開閉部側封止材）

図３９～図４１の飲料用開閉部側封止材３２４は、図６又は図３７等の飲料用開口部３１２を当該飲料用開口部３１２の下側（－Ｚ方向）から開閉する飲料用開閉部材であり、具体的には、飲料用開口部３１２を塞いで閉じたり、飲料用開口部３１２を空けて開いたりする部材である。飲料用開閉部側封止材３２４は、水密及び気密を維持するためのパッキン又はシールであり、例えば、本体部３２１における正面側（＋Ｘ方向）の端部において上側（＋Ｚ方向）に向けて突出しているものであり、また、平面視において、飲料用開口部３１２よりも大径となっているものである。

[0093]（構成－第２部分－移動用部材－気体用開閉部側封止材）

図３９～図４１の気体用開閉部側封止材３２５は、図６又は図３７等の気体用開口部３１３を当該気体用開口部３１３の下側（－Ｚ方向）から開閉する気体用開閉部材であり、具体的には、全ての気体用開口部３１３を塞いで閉じたり、全ての気体用開口部３１３を空けて開いたりする部材である。気体用開閉部側封止材３２５は、水密及び気密を維持するためのパッキン又はシールであり、例えば、本体部３２１の背面側（－Ｘ方向）の端部において上側（＋Ｚ方向）に向けて突出しているものである。また、気体用開閉部側封止材３２５は、例えば、全ての気体用開口部３１３（図３７）を塞ぐことができる径となっている。

[0094]（構成－第２部分－移動用部材－突出部側封止材）

図３９～図４１の突出部側封止材３２６は、水密及び気密を維持するためのパッキン又はシールであり、例えば、図３７の仕切部材３１の中央側開口

部３１１において、本体部１０１の中空部１１（図５）に収容された飲料及び気体が、移動用部材３２の中央側突出部３２２と仕切部材３１との間から漏れることを防止するためのものである。突出部側封止材３２６は、例えば、中央側突出部３２２の下側（－Ｚ方向）寄りの外面に沿って設けられている円環状のものある

[0095] なお、移動用部材３２における、本体部３２１及び中央側突出部３２２が「移動部材」に対応するものと解釈してもよい。

[0096]（構成－第２部分－付勢部材）

図３５及び図３６の付勢部材３３は、仕切部材３１に対して、移動用部材３２を、取付部材３４を介して上側（＋Ｚ方向）に付勢して押している部材であり、例えば、バネ等の弾性を有する要素を用いて構成することができる。付勢部材３３は、例えば、図３２及び図３４に示すように、縦方向（Ｚ軸方向）において、仕切部材３１と取付部材３４との間に設けられている。

[0097]（構成－第２部分－取付部材）

図３５及び図３６の取付部材３４は、移動用部材３２に対して付勢部材３３を取り付けるための部材であり、例えば、平面視で円形となっており、樹脂等で形成されている部材である。取付部材３４は、例えば、図３５の開口部３４１、及び固定凹部３４２を備える。

[0098]（構成－第２部分－取付部材－開口部）

図３５及び図３６の開口部３４１は、移動用部材３２の中央側突出部３２２の上端部（＋Ｚ方向）が通される開口部であり、例えば、水平方向における取付部材３４の中心に設けられている開口部である。

[0099]（構成－第２部分－取付部材－固定凹部）

図３５の固定凹部３４２は、移動用部材３２の固定片３２３が上側（＋Ｚ方向）から固定される部分であり、例えば、取付部材３４の上面（＋Ｚ方向）における開口部３４１の周囲に設けられている部分である。

[0100]（蓋部の組み立て方法）

次に、蓋部１０２の組み立て方法について説明する。例えば、図１３の第

１部分１０２Ａの組み立て方法、及び第２部分１０２Ｂの組み立て方法について説明した後に、蓋部１０２の組み立て方法について説明する。

[0101]（蓋部の組み立て方法－第１部分）

まず、図１３の第１部分１０２Ａの組み立て方法について説明する。なお、以下で説明する各部品の組み立て順序については、任意に変更してもよいこととする（他の部分の組み立ても同様とする）。

[0102] まず、図１７及び図１８の操作部材２２に対して調整部材２３を取り付ける。例えば、図２３の操作部材２２の中央側突出部２２２を、図２５の調整部材２３の開口部２３１を通して、中央側突出部２３２の内部に設ける。この場合、図２３の操作部材２２のネジ山２２２Ａが、図２５の調整部材２３のネジ溝２３２Ａに設けられて、操作部材２２の中央側突出部２２２が調整部材２３に螺合することになる。

[0103] 次に、図１７及び図１８の案内部材２４を用いて、これらの操作部材２２及び調整部材２３を、本体部材２１に取り付ける。例えば、調整部材２３を図２８の案内部材２４の中央側突出部２４２の内部に設けることにより、図２５の調整部材２３の案内突出部２３３を、図２８の案内部材２４の案内凹部２４２Ａに設ける。次に、図１７及び図１８の固定ネジ９０１を、図２９の案内部材２４のネジ孔２４３、及び図１７及び図１８の本体部材２１のネジ孔に対して連続的に螺合して固定する。

[0104] 次に、図１７及び図１８の連結部材２５を、本体部材２１における下端部（－Ｚ方向）に取り付ける。この取付手法は任意であるが、例えば、各部材に対して、これら各部材が相互に着脱自在に取り付け可能となる係合構造が設けられていることとし、この係合構造を用いて取り付けてもよい。これにて、図１４～図１６の蓋部１０２の第１部分１０２Ａの組み立てが完了する。

[0105]（蓋部の組み立て方法－第２部分）

次に、図１３の第２部分１０２Ｂの組み立て方法について説明する。

[0106] まず、図３５及び図６６の移動用部材３２を、仕切部材３１に設ける。例

えば、図３９の移動用部材３２の中央側突出部３２２を、図３８の仕切部材３１の中央側開口部３１１に通して設ける。

[0107] 次に、図３５及び図３６の付勢部材３３を設ける。例えば、図３８の中央側開口部３１１を介して上側（＋Ｚ方向）に突出している移動用部材３２の中央側突出部３２２の周囲に、上側（＋Ｚ方向）から図３５の付勢部材３３であるバネを設ける。なお、この場合、付勢部材３３の下端部（－Ｚ方向）は、仕切部材３１における中央側開口部３１１の周囲の部分に載置されることになる。

[0108] 次に、図３５及び図３６の取付部材３４を取り付ける。例えば、移動用部材３２の中央側突出部３２２の周囲に設けられている付勢部材３３を圧縮した状態で、取付部材３４の開口部３４１に対して、移動用部材３２の中央側突出部３２２の上部側（＋Ｚ方向）を挿通して、取付部材３４を回動させることにより、取付部材３４の固定凹部３４２に移動用部材３２の固定片３２３を設ける。なお、この場合、図３２及び図３４に示すように、付勢部材３３であるバネは、仕切部材３１と取付部材３４との間において圧縮された状態で設けられることになる。これにて、図３２～図３４の蓋部１０２の第２部分１０２Ｂの組み立てが完了する。

[0109] （蓋部の組み立て方法－蓋部）

次に、図１３の第１部分１０２Ａに対して第２部分１０２Ｂを取り付ける。この取付手法は任意であるが、例えば、各部分に対して、これら各部分が相互に着脱自在に取り付け可能となる係合構造が設けられていることとし、この係合構造を用いて取り付けてもよい。これにて、図７～図１２の蓋部１０２の組み立てが完了する。

[0110] （動作）

次に、蓋部１０２の動作について説明する。例えば、第１部分１０２Ａの動作、及び第２部分１０２Ｂの動作を説明した後に、蓋部１０２の動作について説明する。

[0111] （動作－第１部分）

まず、図１４～図１６の第１部分１０２Ａの動作について説明する。

[0112] 例えば、図１４の操作部材２２を、一方回りに９０度回動した場合、操作部材２２の中央側突出部２２２も一方回りに９０度回動する。この場合、当該中央側突出部２２２に螺合している調整部材２３は、図２５の案内突出部２３３が図２８の案内部材２４の案内凹部２４２Ａに設けられているので、前述の回動に基づいて、例えば、下側（－Ｚ方向）に移動して突出することになる。

[0113] この後、例えば、図１４の操作部材２２を、他方回りに９０度回動して戻した場合、操作部材２２の中央側突出部２２２も他方回りに９０度回動する。この場合、当該中央側突出部２２２に螺合している調整部材２３は、図２５の案内突出部２３３が図２８の案内部材２４の案内凹部２４２Ａに設けられているので、前述の回動に基づいて、例えば、上側（＋Ｚ方向）に移動して退避することになる。

[0114] （動作－第２部分）

次に、図３２～図３４の第２部分１０２Ｂの動作について説明する。

[0115] 例えば、第２部分１０２Ｂに対して外力が付与されていない場合、図３４の付勢部材３３の付勢力によって、取付部材３４が仕切部材３１に対して上側（＋Ｚ方向）に向かって移動する。この場合、移動用部材３２の固定片３２３が取付部材３４（詳細には、固定凹部３４２（図３５））の上面に設けられているので、当該固定片３２３が取付部材３４によって上側（＋Ｚ方向）に向かって押されて、移動用部材３２が上側（＋Ｚ方向）に移動することになる。そして、移動用部材３２の飲料用開閉部側封止材３２４（図４１）及び気体用開閉部側封止材３２５は、仕切部材３１の下側（－Ｚ方向）から、仕切部材３１における飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３に対応する位置に押し付けられて、各封止材によって各開口部が塞がれる。すなわち、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３が同時に塞がれて閉じることになる。

[0116] また、例えば、移動用部材３２の中央側突出部３２２が下側（－Ｚ方向）

に向かって押された場合、図３４の付勢部材３３の付勢力に抗して、移動用部材３２が下側に移動することになる。この場合、移動用部材３２の飲料用開閉部側封止材３２４（図４１）及び気体用開閉部側封止材３２５は、仕切部材３１から離れるので、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３は空けられる。すなわち、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３が同時に空けられて開くことになる。

[0117] なお、移動用部材３２の本体部３２１が、図３８の仕切部材３１における２個の案内部３１５の間において上下動することになるので、移動用部材３２が移動時に横方向（案内部３１５が設けられている方向）にずれることを防止することができるので、各開口部の開閉を適切に行うことが可能となる。

[0118] （動作－蓋部）

次に、図７～図１２の蓋部１０２の動作について説明する。図４２及び図４３は、飲料容器の一部の断面図である。なお、図４２及び図４３は、図５及び図６と同様な断面図である。

[0119] 例えば、図７の操作部材２２を、一方回りに９０度回動した場合、前述したように、調整部材２３は下側（－Ｚ方向）に向かって移動する。この場合、図４３の矢印Ａ２に示すように、移動用部材３２は、調整部材２３に押されて、下側（－Ｚ方向）に移動し、飲料用開閉部側封止材３２４及び気体用開閉部側封止材３２５が仕切部材３１から離れるので、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３は空けられて開くことになる。

[0120] なお、飲料用開閉部側封止材３２４及び気体用開閉部側封止材３２５が仕切部材３１から離れて各開口部が開いている当該各封止材の位置（例えば、図４３の位置）が、「飲料用開閉部材側第２位置」及び「気体用開閉部材側第２位置」に対応するものと解釈してもよい。

[0121] この後、例えば、図７の操作部材２２を、他方回りに９０度回動した場合、前述したように、調整部材２３は上側（＋Ｚ方向）に向かって移動する。この場合、図４２の矢印Ａ１に示すように、移動用部材３２は、付勢部材３

３の付勢力によって、上側（－Ｚ方向）に移動し、飲料用開閉部側封止材３２４及び気体用開閉部側封止材３２５が仕切部材３１に押し付けられるので、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３は塞がれて閉じることになる。

[0122] なお、飲料用開閉部側封止材３２４及び気体用開閉部側封止材３２５が仕切部材３１に押し付けられて各開口部が閉じている当該各封止材の位置（例えば、図４２の位置）が、「飲料用開閉部材側第１位置」及び「気体用開閉部材側第１位置」に対応するものと解釈してもよい。

[0123] （利用方法）

次に、飲料容器１００の利用方法について説明する。

[0124] まず、図４に示すように、本体部１０１から蓋部１０２を取り外して、本体部側開口部１４を介して本体部１０１の中空部１１に対して、飲料を入れて収容する。次に、本体部１０１に対して蓋部１０２を取り付ける。

[0125] 次に、図４２に示すように、操作部材２２を他方回りに９０度回動して、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３を塞いで閉じる。

[0126] この場合、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３が閉じており、水密及び気密が維持されているので、飲料容器１００を傾けても、中空部１１内に収容されている飲料は排出されないことになる。また、飲料が炭酸飲料であるために、当該飲料が発泡し、中空部１１内の圧力が増大することになるが、所定圧力を超えた場合、減圧弁３１４を介して減圧されることになるので、中空部１１内の圧力を所定圧力程度に維持することが可能となる。また、飲料用開閉部側封止材３２４及び気体用開閉部側封止材３２５が仕切部材３１の下側から各開口部を閉じているので、中空部１１内の圧力が増大したとしても、開口部を閉じた状態を確実に維持することが可能となる。

[0127] 次に、図４３に示すように、操作部材２２を一方回りに９０度回動して、飲料用開口部３１２及び気体用開口部３１３を空けて開く。

[0128] この場合、本体部１０１の中空部１１が、飲料用開口部３１２及び流路部２１４を介して、排出口２１５に通じることになるので、飲料容器１００を

傾けた場合に、中空部１１内に収容されている飲料を、飲料用開口部３１２、流路部２１４、排出口２１５を介して、図１の注ぎ口１２付近から排出することが可能となる。なお、この場合、気体用開口部３１３が開いているので、気密が維持されているわけない蓋部１０２の内部空間２１Ａ（図４３）及び気体用開口部３１３を介して、外気が中空部１１内に取り込まれることになり、飲料を飲料用開口部３１２側から確実に排出することが可能となる。なお、内部空間２１Ａに関しては、気密が維持されていない各部品間（例えば、本体部材２１と、操作部材２２又は調整部材２３との間の隙間等）を介して、外気が取り込まれることになる。

[0129] 前述のようにして、飲料容器１００に飲料を収容して保存したり、飲料容器１００から飲料を排出したりすることが可能となる。

[0130] （実施の形態の効果）

このように本実施の形態によれば、飲料用開口部３１２を当該飲料用開口部３１２の下側から開閉する飲料用開閉部側封止材３２４を備えることにより、例えば、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にすることが可能となる。

[0131] また、気体用開口部３１３を当該気体用開口部３１３の下側から開閉する気体用開閉部側封止材３２５を備えることにより、例えば、気体用開口部３１３を介して飲料が排出されることを防止することが可能となる。

[0132] また、飲料用開閉部側封止材３２４を飲料用開閉部材側第１位置に移動させ、且つ、気体用開閉部側封止材３２５を気体用開閉部材側第１位置に移動させ、あるいは、飲料用開閉部側封止材３２４を飲料用開閉部材側第２位置に移動させ、且つ、気体用開閉部側封止材３２５を気体用開閉部材側第２位置に移動させることにより、例えば、飲料を排出する際に外気を取り込むことができるので、飲料をスムーズに排出することが可能となる。また、例えば、両開口部を閉じることができるので、飲料が排出されることを確実に防止することが可能となる。

[0133] また、減圧弁３１４を備えることにより、例えば、本体部１０１内の圧力

が上昇し続けることを防止することができるので、安全性を維持することが可能となる。

[0134] また、飲料は発泡性の飲料であることにより、例えば、ユーザの意図に即して発泡性の飲料を排出可能又は排出不可能にすることが可能となる。特に、例えば、飲料の発泡により本体部１０１内の圧力が上昇した場合、当該圧力に基づいて、ユーザの意図に反して飲料用開閉部側封止材３２４がずれて飲料用開口部３１２が開くことを防止することができるので、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にすることが確実に可能となる。

[0135] 〔実施の形態に対する変形例〕

以上、本発明に係る実施の形態について説明したが、本発明の具体的な構成及び手段は、特許請求の範囲に記載した各発明の技術的思想の範囲内において、任意に改変及び改良することができる。以下、このような変形例について説明する。

[0136] （解決しようとする課題や発明の効果について）

まず、発明が解決しようとする課題や発明の効果は、上述の内容に限定されるものではなく、発明の実施環境や構成の詳細に応じて異なる可能性があり、上述した課題の一部のみを解決したり、上述した効果の一部のみを奏したりすることがある。

[0137] （材質について）

また、上記実施の形態で説明した材質を任意に変更してもよく、例えば、金属製のものの全部又は一部を樹脂製等の他の材質に変更したり、あるいは、樹脂製のものの全部又は一部を金属製当の他の材質に変更したりしてもよい。

[0138] （取付手法について）

また、上記実施の形態の蓋部１０２の各構成要素を相互に取り付ける取付手法は任意であり、例えば、係合して取り付けるように構成しもよいし、又は、ネジ止めして取り付けるように構成してもよいし、あるいは、接着剤等で固定して取り付けるように構成してもよい。

[0139] （移動用部材を移動させる機構について）

また、上記実施の形態では、操作部材２２を回動することにより、移動用部材３２を上下に移動させる場合について説明したが、これに限らない。例えば、上下に移動する操作レバーを設けて、当該操作レバーを上下に移動させることにより、移動用部材３２を上下に移動させるように構成してもよい。

[0140] （各部材について）

また、上記実施の形態で説明した各部材を一体的に構成してもよい。例えば、図１７の本体部材２１及び連結部材２５を一体的に構成してもよい。

[0141] （特徴について）

また、上記実施の形態の構成、及び変形例の特徴を、任意に組み合わせてもよい。

[0142] （付記）

付記１の飲料容器は、飲料を収容する収容部と、前記収容部の上部に設けられる蓋部と、を備え、前記蓋部は、前記収容部に収容されている前記飲料を排出する飲料用開口部と、前記飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材と、を備える。

[0143] 付記２の飲料容器は、付記１に記載の飲料容器において、前記蓋部は、前記収容部に収容されている前記飲料を排出する場合に、前記収容部の内部に外気を取り込む気体用開口部であって、前記飲料用開口部とは別に設けられている前記気体用開口部と、前記気体用開口部を当該気体用開口部の下側から開閉する気体用開閉部材と、を更に備える。

[0144] 付記３の飲料容器は、付記２に記載の飲料容器において、前記飲料用開閉部材は、前記飲料用開口部を塞いで閉じる飲料用開閉部材側第１位置と、前記飲料用開口部を空けて開く飲料用開閉部材側第２位置とに移動可能であり、前記気体用開閉部材は、前記気体用開口部を塞いで閉じる気体用開閉部材側第１位置と、前記気体用開口部を空けて開く気体用開閉部材側第２位置とに移動可能であり、前記蓋部は、前記飲料用開閉部材及び前記気体用開閉部

材を相互に同期させて移動させる移動部材、を備え、前記移動部材は、前記飲料用開閉部材を前記飲料用開閉部材側第１位置に移動させ、且つ、前記気体用開閉部材を前記気体用開閉部材側第１位置に移動させ、あるいは、前記飲料用開閉部材を前記飲料用開閉部材側第２位置に移動させ、且つ、前記気体用開閉部材を前記気体用開閉部材側第２位置に移動させる。

[0145] 付記４の飲料容器は、付記１から３の何れか一項に記載の飲料容器において、前記蓋部は、前記収容部内を減圧するための減圧手段、を更に備える。

[0146] 付記５の飲料容器は、付記１から４の何れか一項に記載の飲料容器において、前記飲料は、発泡性の飲料である。

[0147] また、付記６に記載の蓋部は、飲料を収容する収容部と、前記収容部の上部に設けられる蓋部と、を備える飲料容器の前記蓋部であって、前記収容部に収容されている前記飲料を排出する飲料用開口部と、前記飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材と、を備える。

[0148]（付記の効果）

付記１に記載の飲料容器、及び付記６に記載の蓋部によれば、飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材を備えることにより、例えば、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にすることが可能となる。

[0149] 付記２に記載の飲料容器によれば、気体用開口部を当該気体用開口部の下側から開閉する気体用開閉部材を備えることにより、例えば、気体用開口部を介して飲料が排出されることを防止することが可能となる。

[0150] 付記３に記載の飲料容器によれば、飲料用開閉部材を飲料用開閉部材側第１位置に移動させ、且つ、気体用開閉部材を気体用開閉部材側第１位置に移動させ、あるいは、飲料用開閉部材を飲料用開閉部材側第２位置に移動させ、且つ、気体用開閉部材を気体用開閉部材側第２位置に移動させることにより、例えば、飲料を排出する際に外気を取り込むことができるので、飲料をスムーズに排出することが可能となる。また、例えば、両開口部を閉じることができるので、飲料が排出されることを確実に防止することが可能となる

。

[0151] 付記４に記載の飲料容器によれば、減圧手段を備えることにより、例えば、収容部内の圧力が上昇し続けることを防止することができるので、安全性を維持することが可能となる。

[0152] 付記５に記載の飲料容器によれば、飲料は発泡性の飲料であることにより、例えば、ユーザの意図に即して発泡性の飲料を排出可能又は排出不可能にすることが可能となる。特に、例えば、飲料の発泡により収容部内の圧力が上昇した場合、当該圧力に基づいて、ユーザの意図に反して飲料用開閉部材がずれて飲料用開口部が開くことを防止することができるので、ユーザの意図に即して飲料を排出可能又は排出不可能にすることが確実に可能となる。

符号の説明

[0153] １１　中空部
１２　注ぎ口
１３　把手
１４　本体部側開口部
１５　本体部側係合部
２１　本体部材
２１Ａ　内部空間
２２　操作部材
２３　調整部材
２４　案内部材
２５　連結部材
３１　仕切部材
３２　移動用部材
３３　付勢部材
３４　取付部材
１００　飲料容器
１０１　本体部

１０２　蓋部

１０２Ａ　第１部分

１０２Ｂ　第２部分

２１０　上部把手

２１１　蓋部側係合部

２１２　開口部

２１３　位置決め凹部

２１４　流路部

２１５　排出口

２１６　本体部材側封止材

２２１　つまみ部

２２２　中央側突出部

２２２Ａ　ネジ山

２２３　位置決め突出部

２３１　開口部

２３２　中央側突出部

２３２Ａ　ネジ溝

２３３　案内突出部

２４１　開口部

２４２　中央側突出部

２４２Ａ　案内凹部

２４３　ネジ孔

２５１　第１開口部

２５２　第２開口部

２５３　連結部材側第１封止材

２５４　連結部材側第２封止材

３１１　中央側開口部

３１２　飲料用開口部

３１３　気体用開口部

３１４　減圧弁

３１５　案内部

３２１　本体部

３２２　中央側突出部

３２３　固定片

３２４　飲料用開閉部側封止材

３２５　気体用開閉部側封止材

３２６　突出部側封止材

３４１　開口部

３４２　固定凹部

９０１　固定ネジ

Ａ１　矢印

Ａ２　矢印

請求の範囲

[請求項1] 飲料を収容する収容部と、

前記収容部の上部に設けられる蓋部と、を備え、

前記蓋部は、

前記収容部に収容されている前記飲料を排出する飲料用開口部と、

前記飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材と、を備える、

飲料容器。

[請求項2] 前記蓋部は、

前記収容部に収容されている前記飲料を排出する場合に、前記収容部の内部に外気を取り込む気体用開口部であって、前記飲料用開口部とは別に設けられている前記気体用開口部と、

前記気体用開口部を当該気体用開口部の下側から開閉する気体用開閉部材と、を更に備える、

請求項１に記載の飲料容器。

[請求項3] 前記飲料用開閉部材は、前記飲料用開口部を塞いで閉じる飲料用開閉部材側第１位置と、前記飲料用開口部を空けて開く飲料用開閉部材側第２位置とに移動可能であり、

前記気体用開閉部材は、前記気体用開口部を塞いで閉じる気体用開閉部材側第１位置と、前記気体用開口部を空けて開く気体用開閉部材側第２位置とに移動可能であり、

前記蓋部は、

前記飲料用開閉部材及び前記気体用開閉部材を相互に同期させて移動させる移動部材、を備え、

前記移動部材は、

前記飲料用開閉部材を前記飲料用開閉部材側第１位置に移動させ、且つ、前記気体用開閉部材を前記気体用開閉部材側第１位置に移動

させ、あるいは、

前記飲料用開閉部材を前記飲料用開閉部材側第２位置に移動させ、且つ、前記気体用開閉部材を前記気体用開閉部材側第２位置に移動させる、

請求項２に記載の飲料容器。

[請求項4] 前記蓋部は、

前記収容部内を減圧するための減圧手段、を更に備える、

請求項１から３の何れか一項に記載の飲料容器。

[請求項5] 前記飲料は、発泡性の飲料である、

請求項１から４の何れか一項に記載の飲料容器。

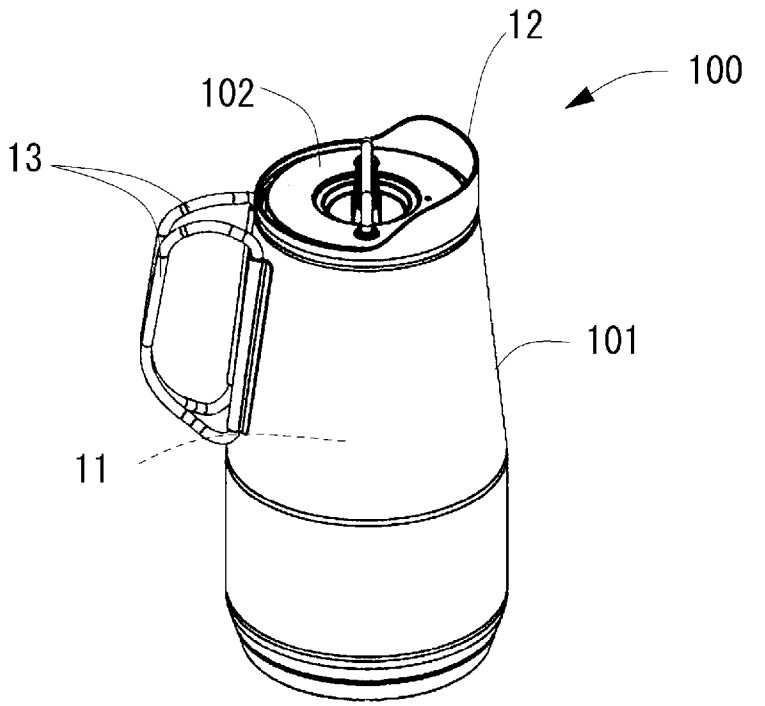
[請求項6] 飲料を収容する収容部と、前記収容部の上部に設けられる蓋部と、を備える飲料容器の前記蓋部であって、

前記収容部に収容されている前記飲料を排出する飲料用開口部と、

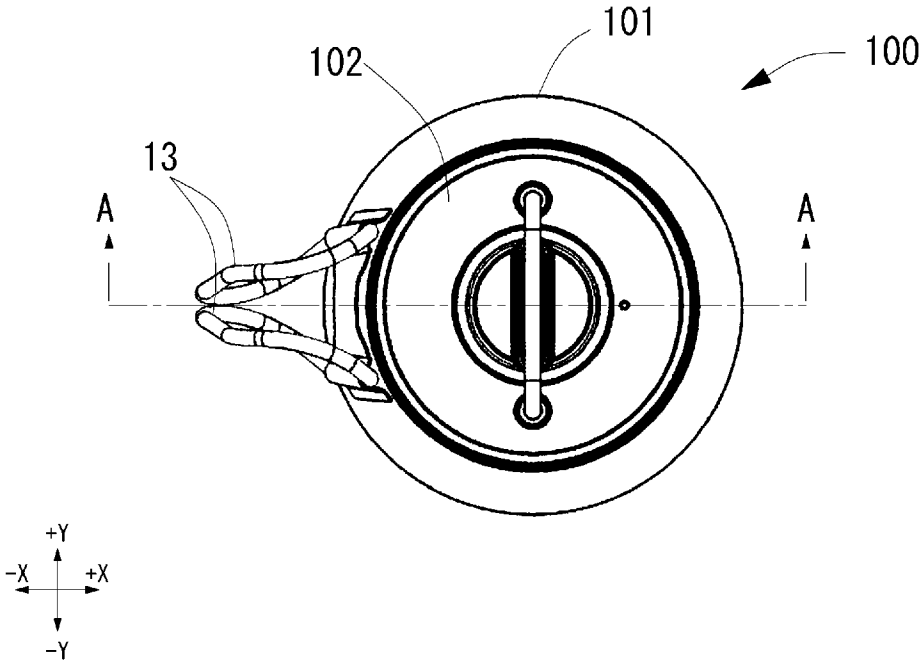
前記飲料用開口部を当該飲料用開口部の下側から開閉する飲料用開閉部材と、を備える、

蓋部。

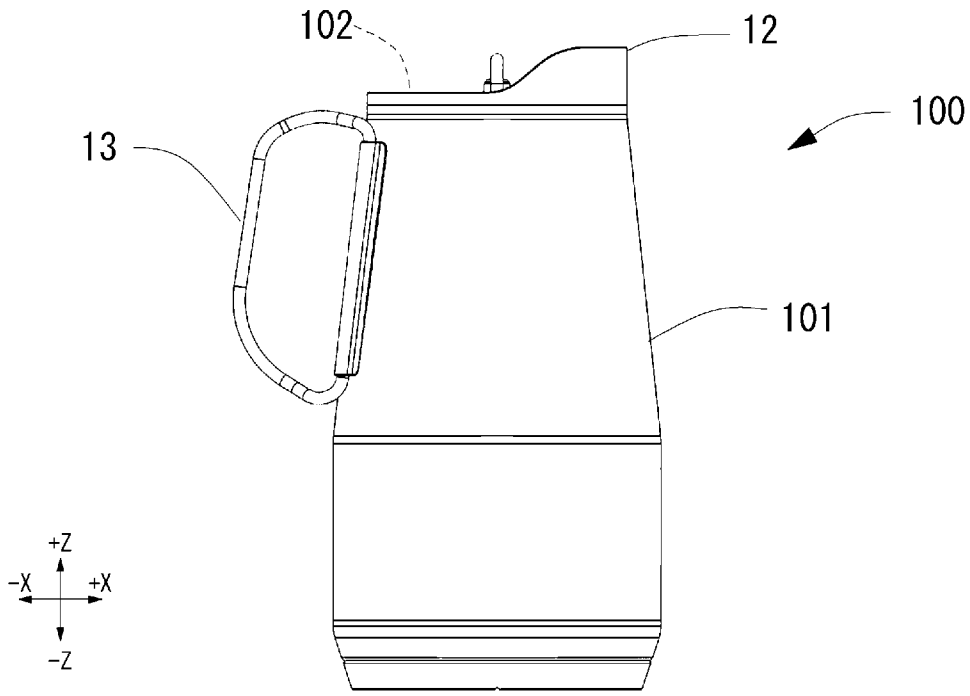
[図1]



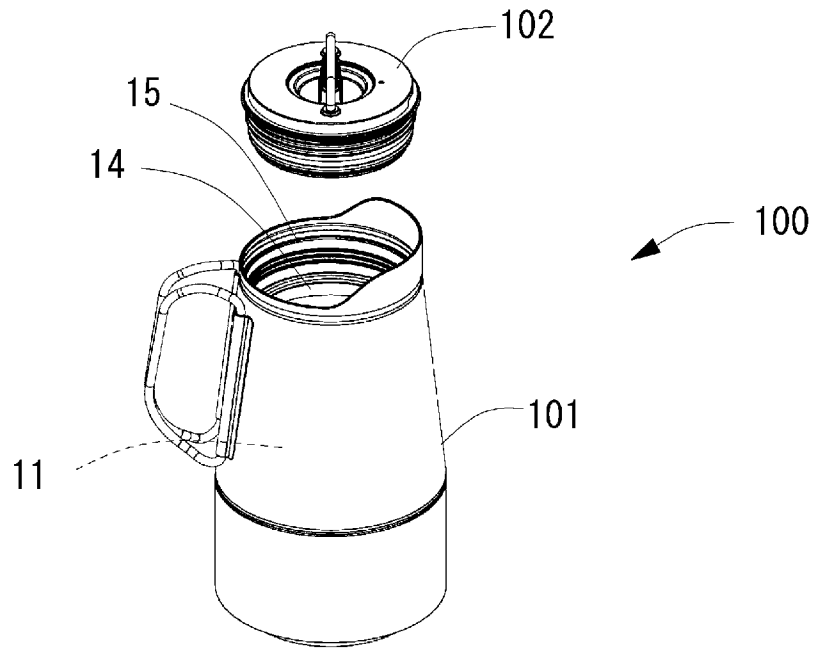
[図2]



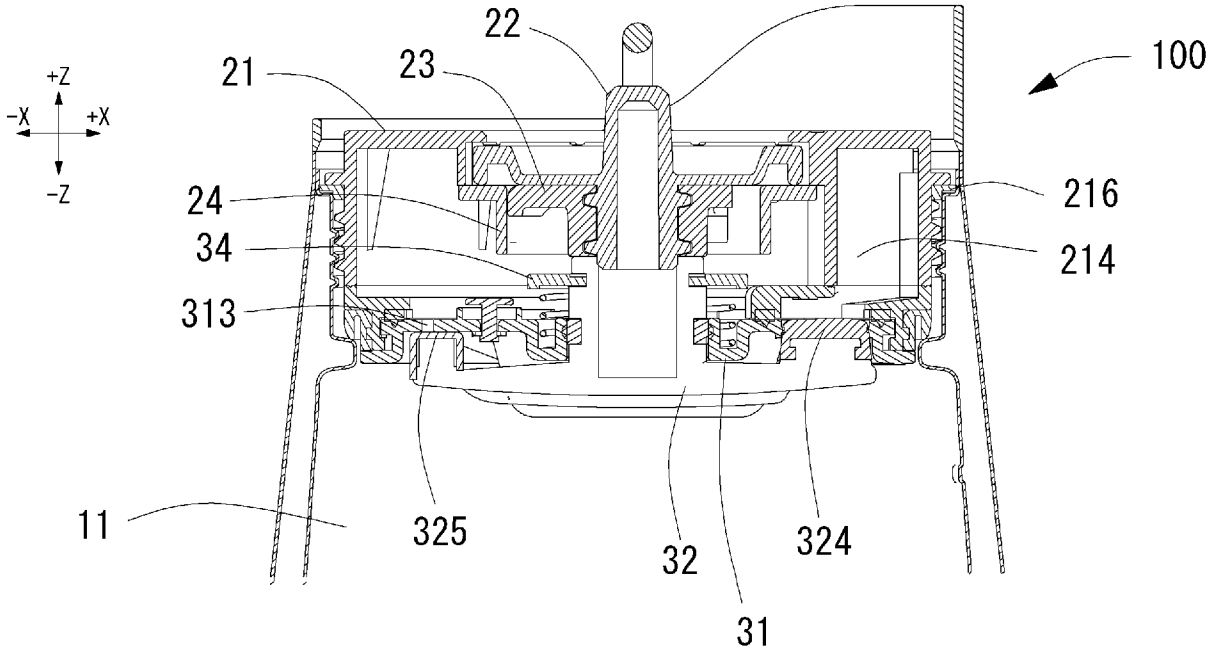
[図3]



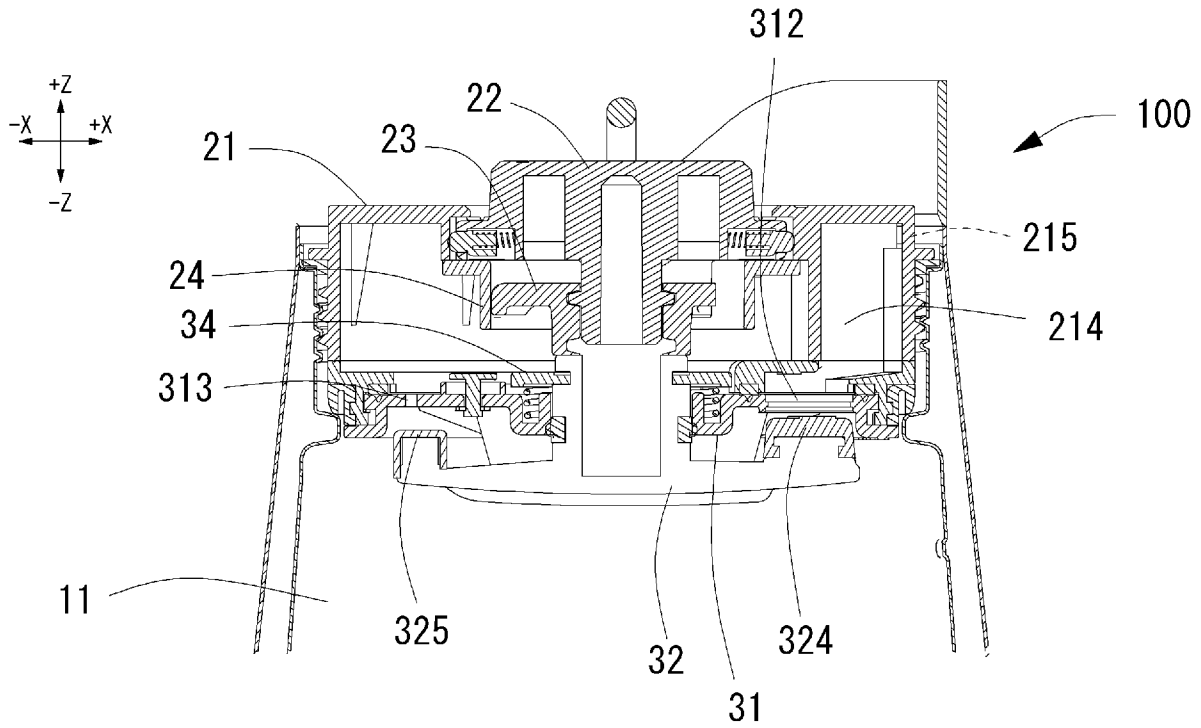
[図4]



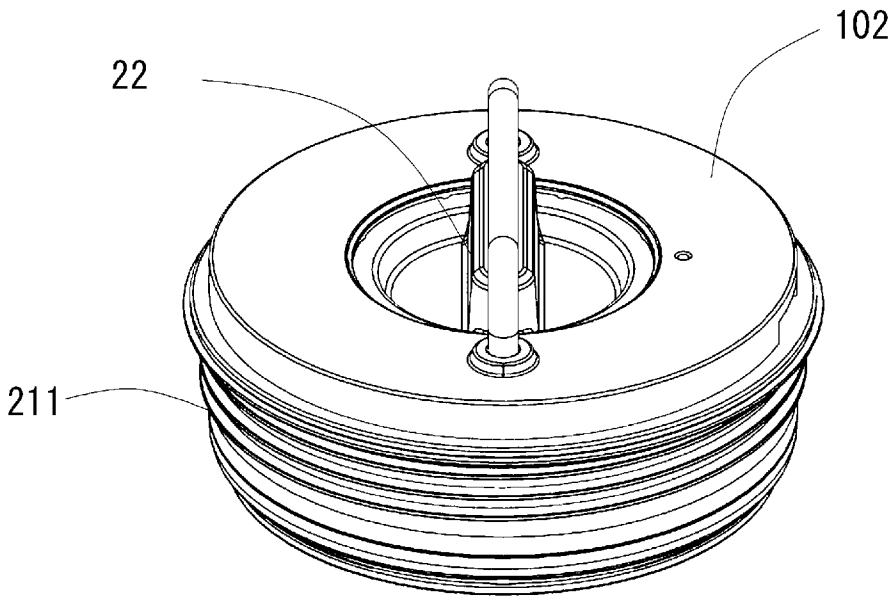
[図5]


+Z
-X
+X
-Z
22
21
23
100
24
216
34
214
313
11
325
32
324
31

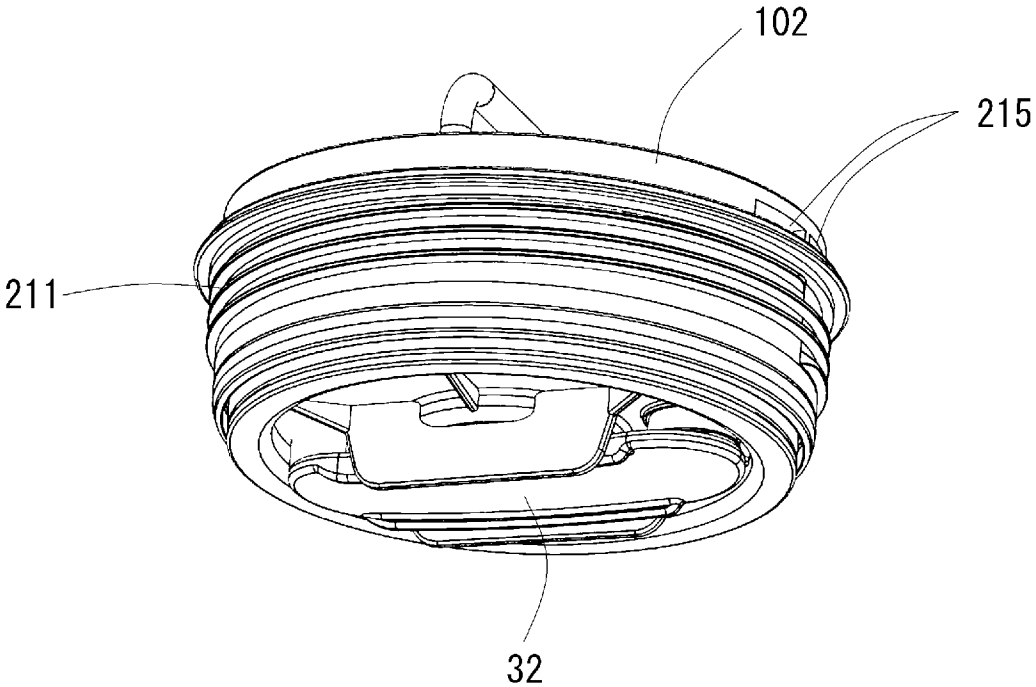
[図6]


312
+Z
-X
+X
-Z
22
21
23
100
215
24
34
214
313
11
325
32
324
31

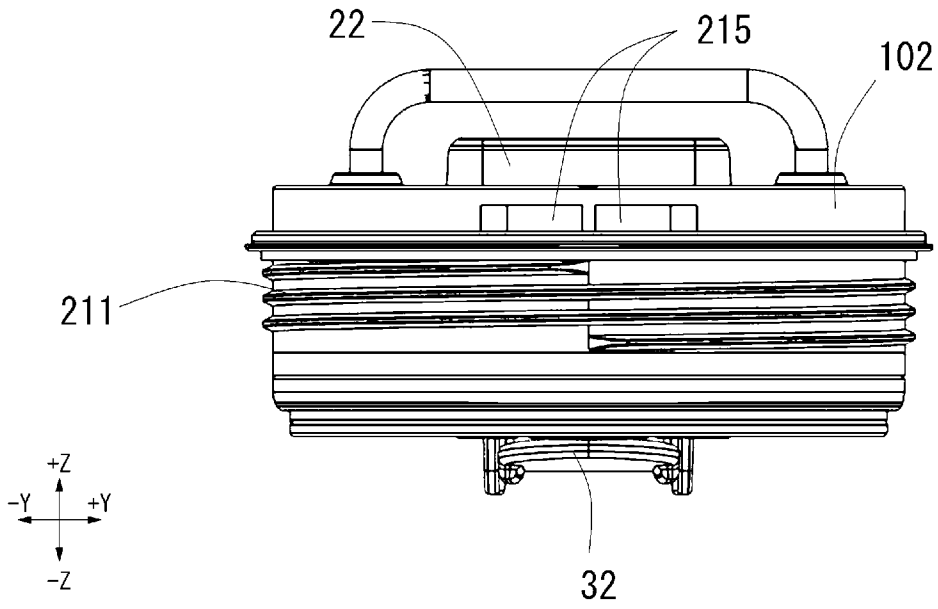
[図7]



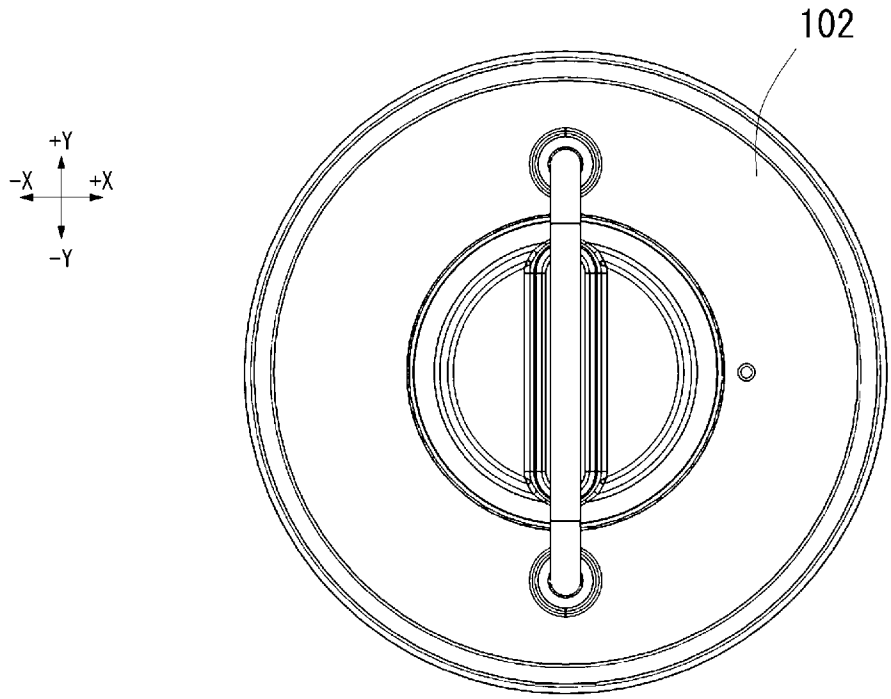
[図8]



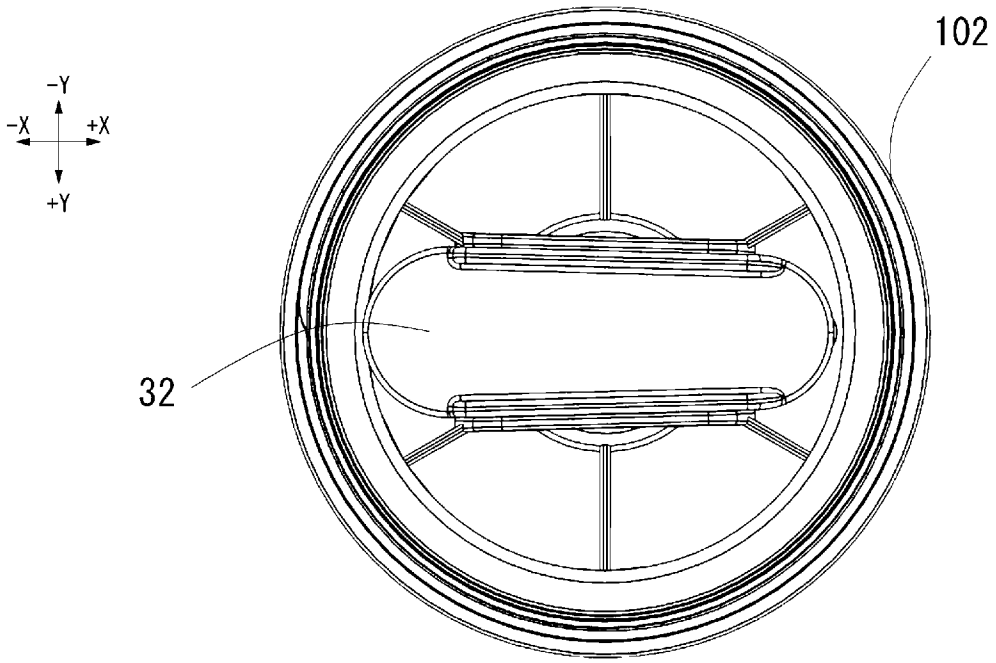
[図9]



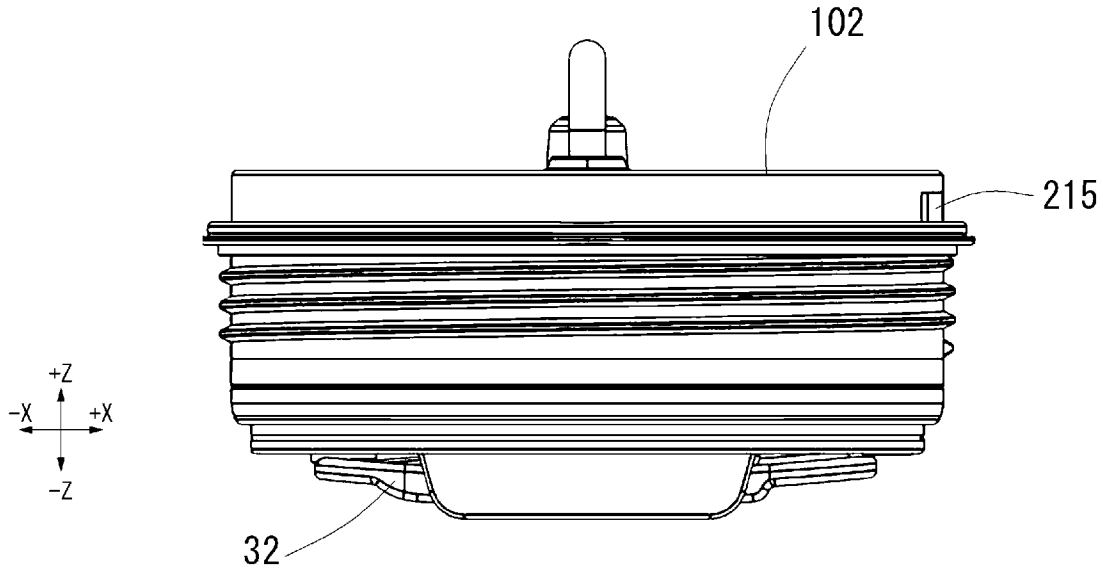
[図10]



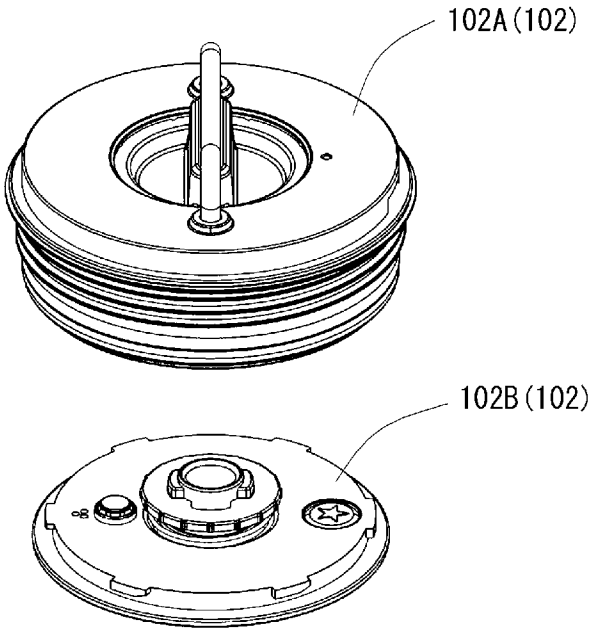
[図11]



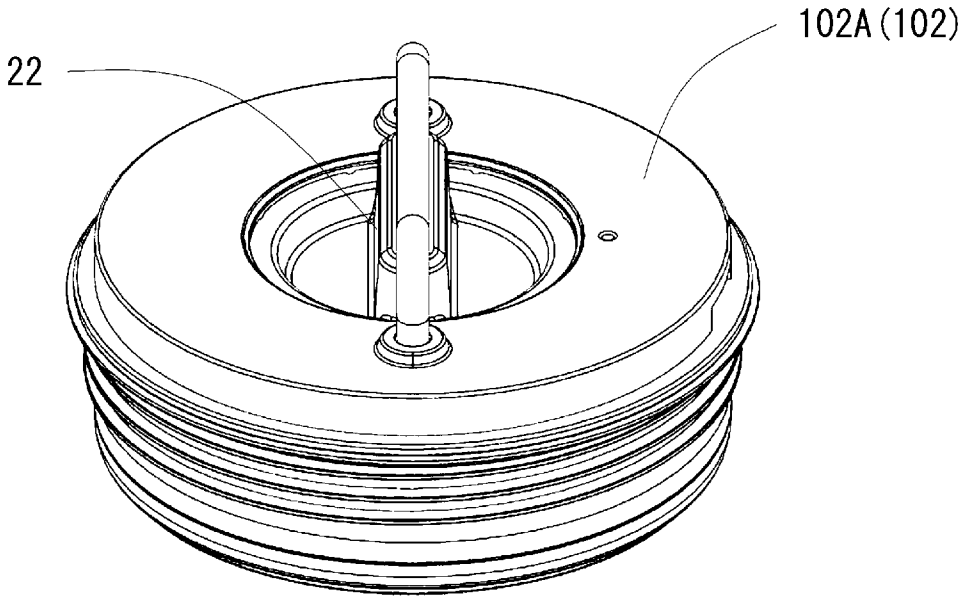
[図12]



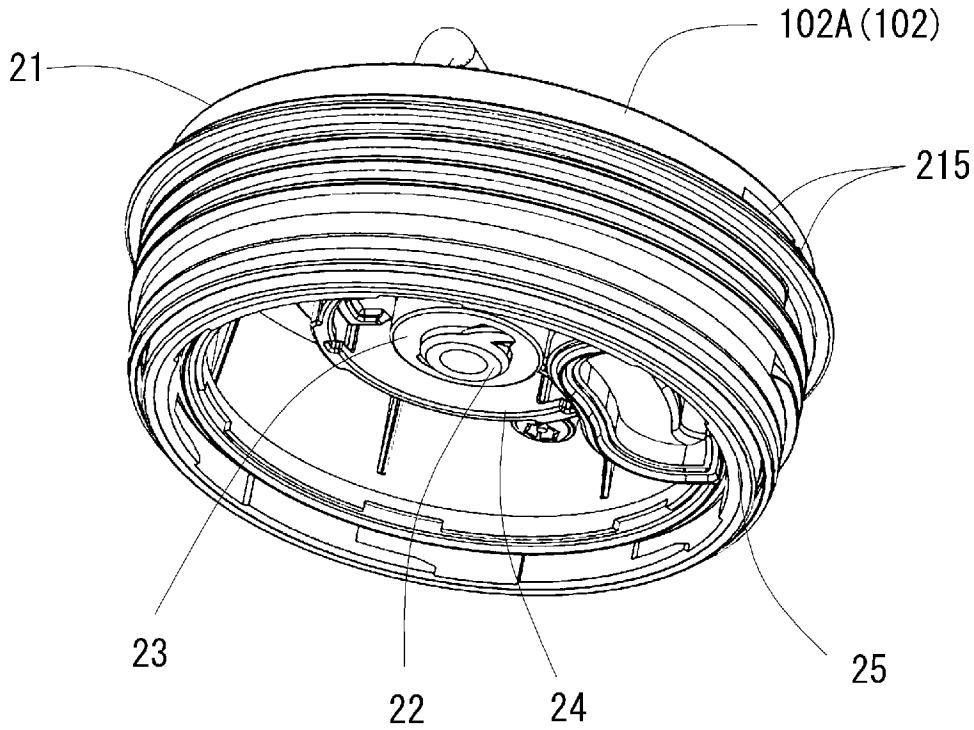
[図13]



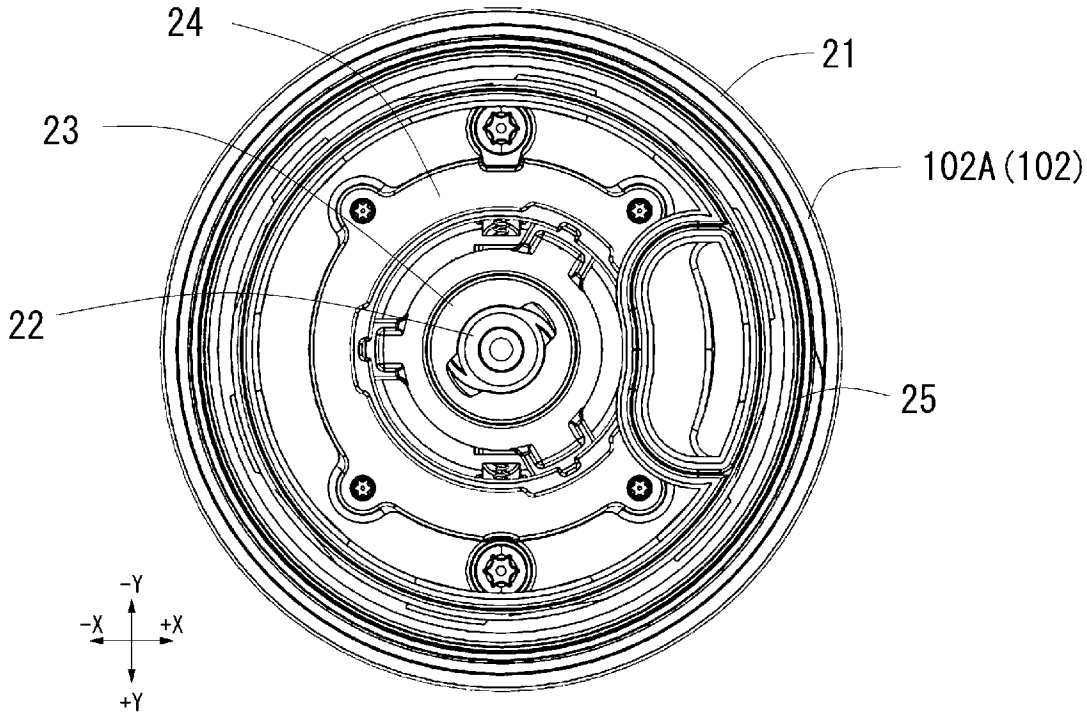
[図14]



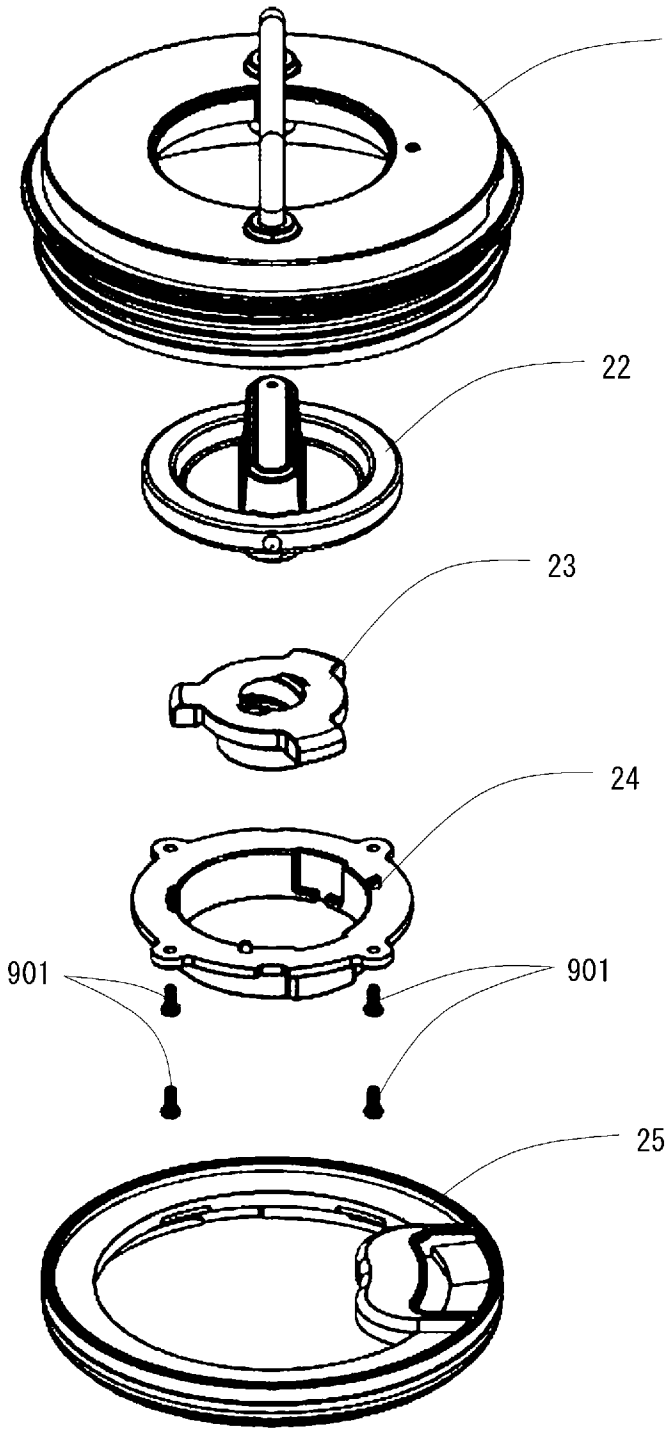
[図15]



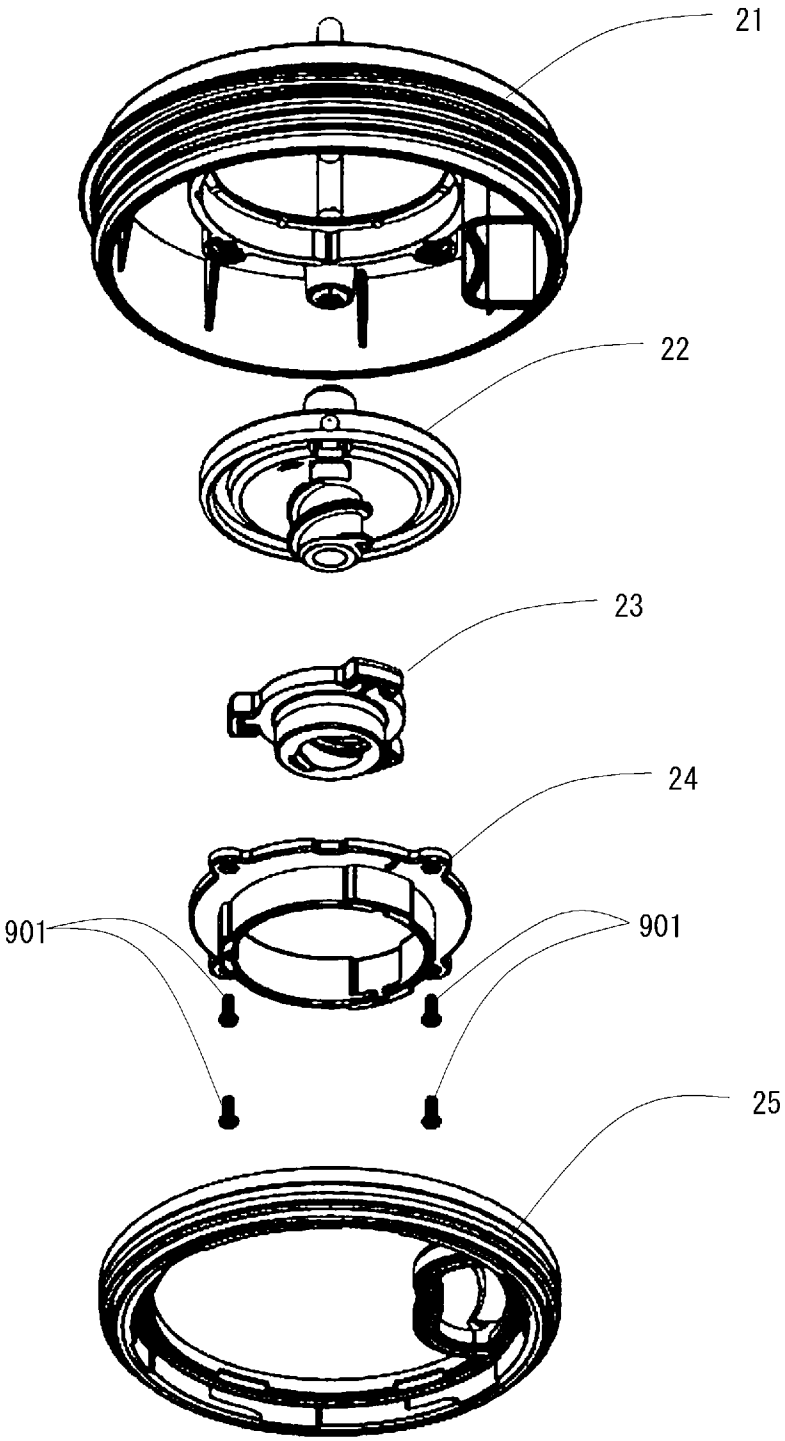
[図16]



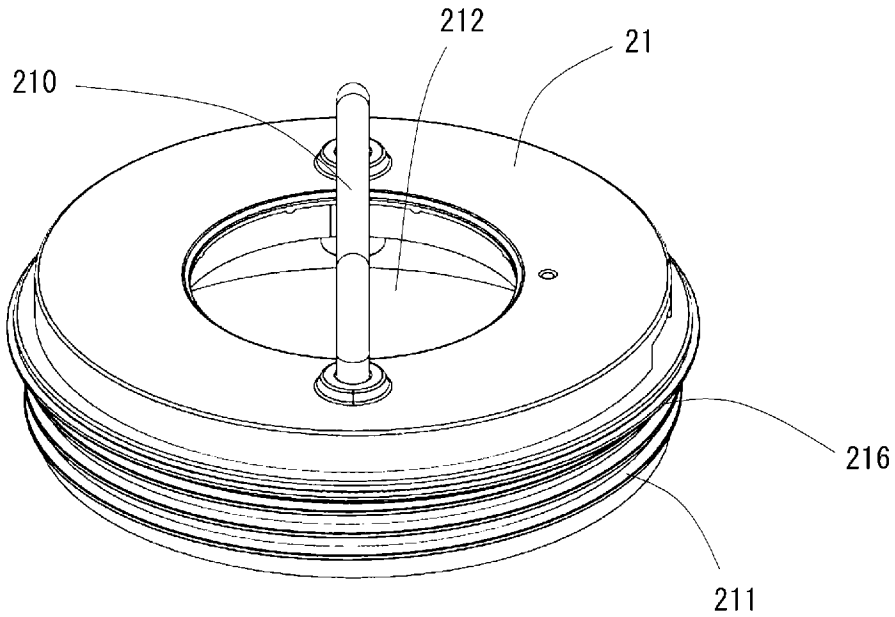
[図17]



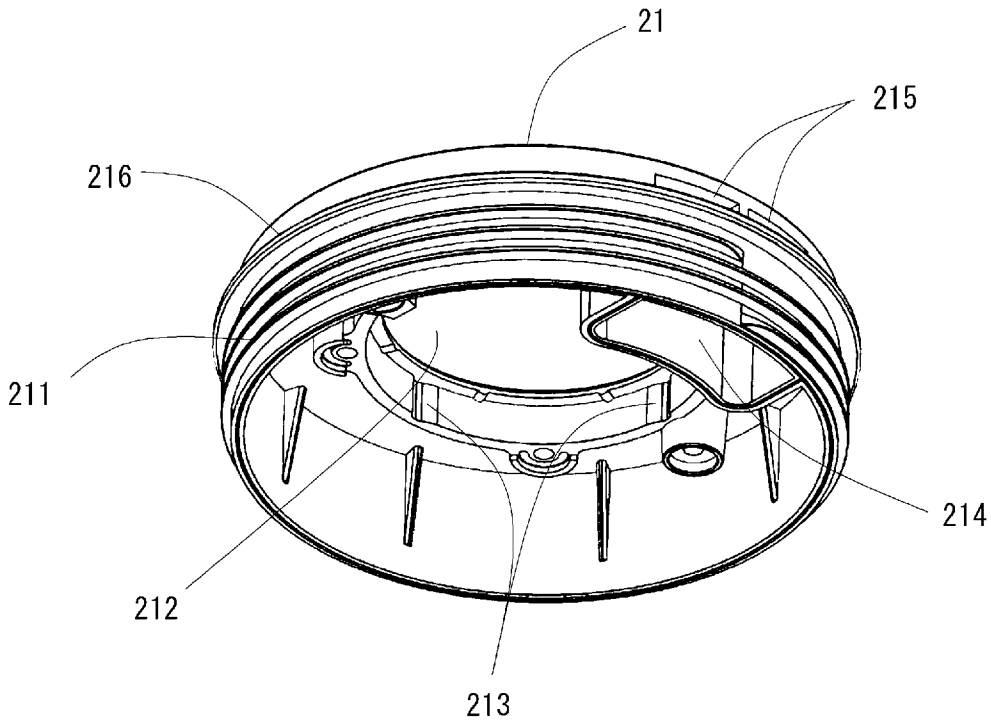
[図18]



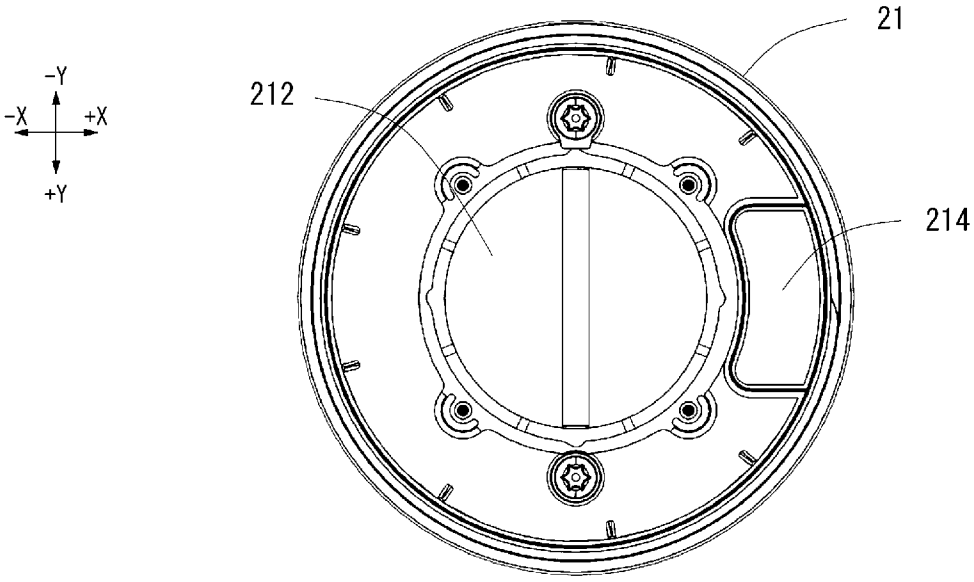
[図19]



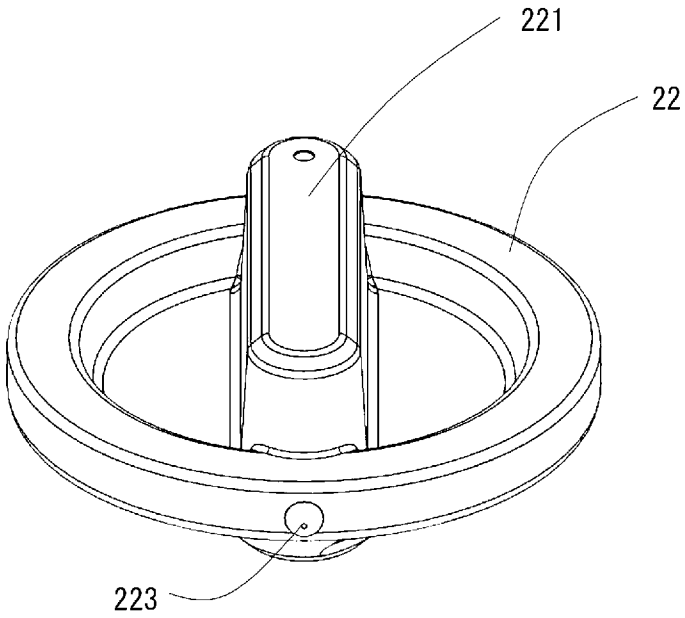
[図20]



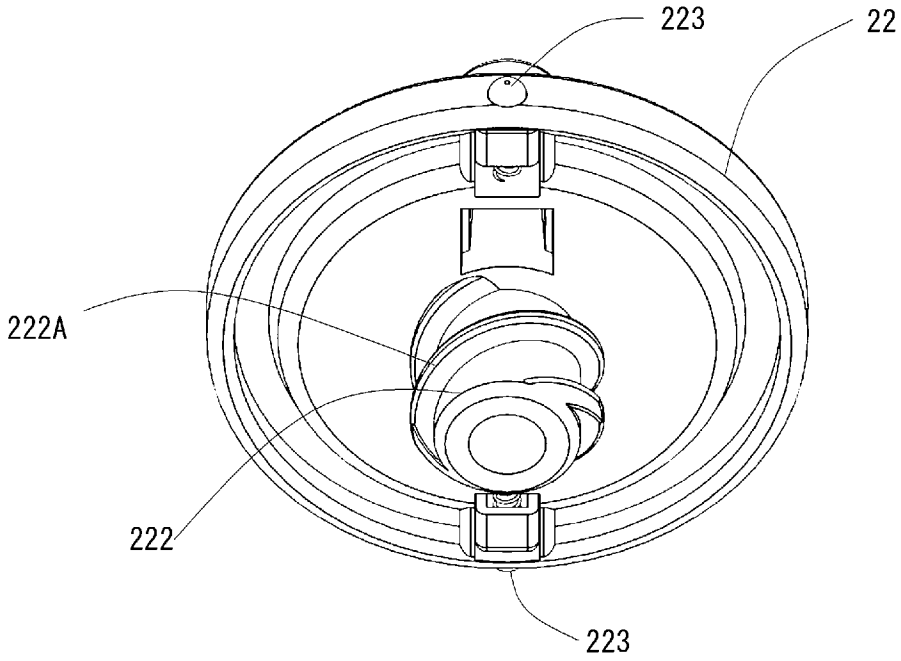
[図21]



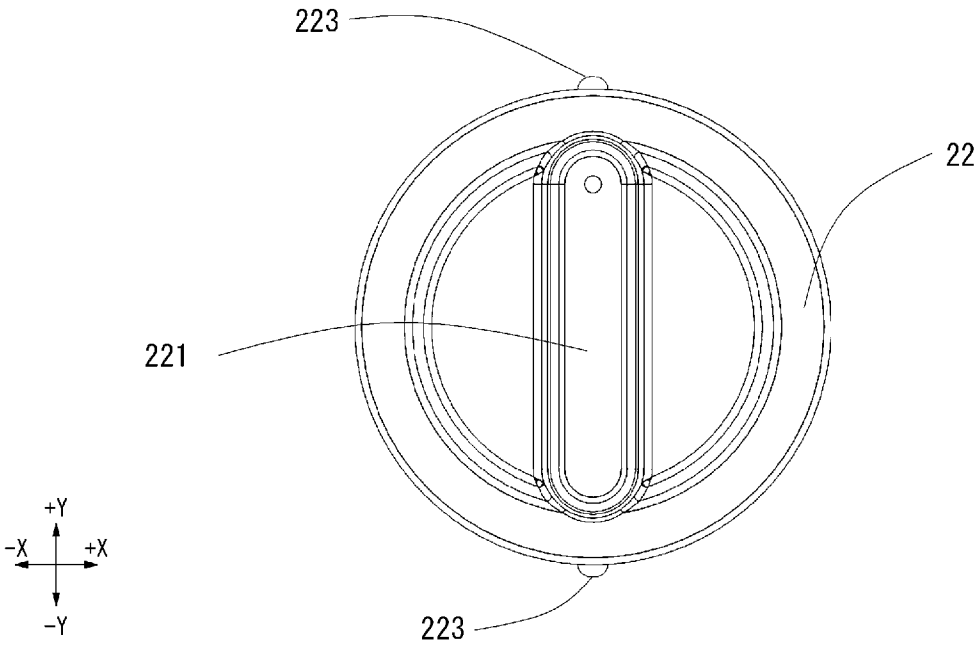
[図22]



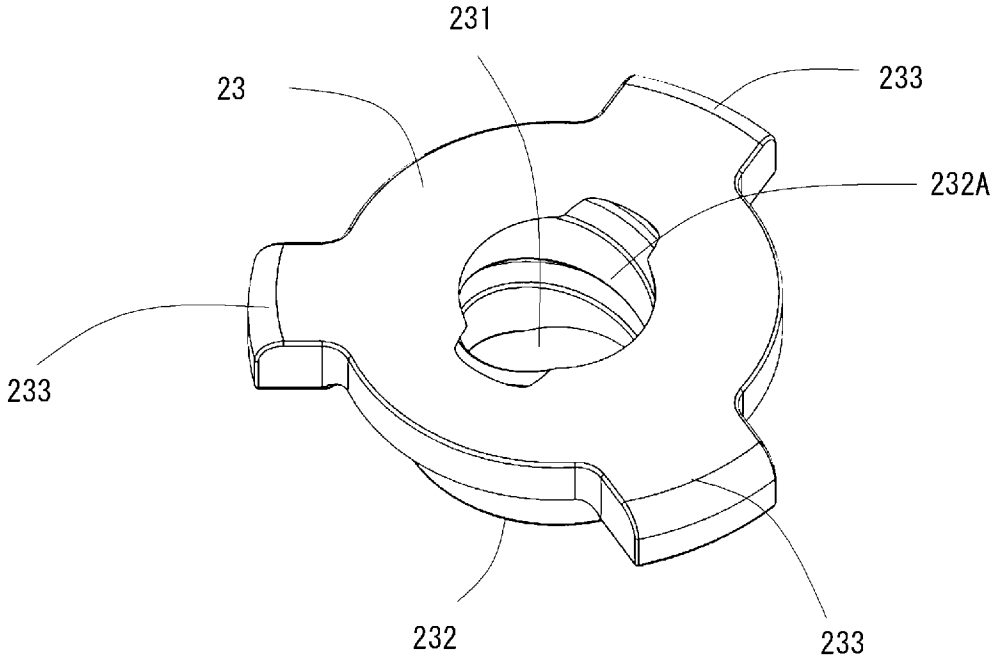
[図23]



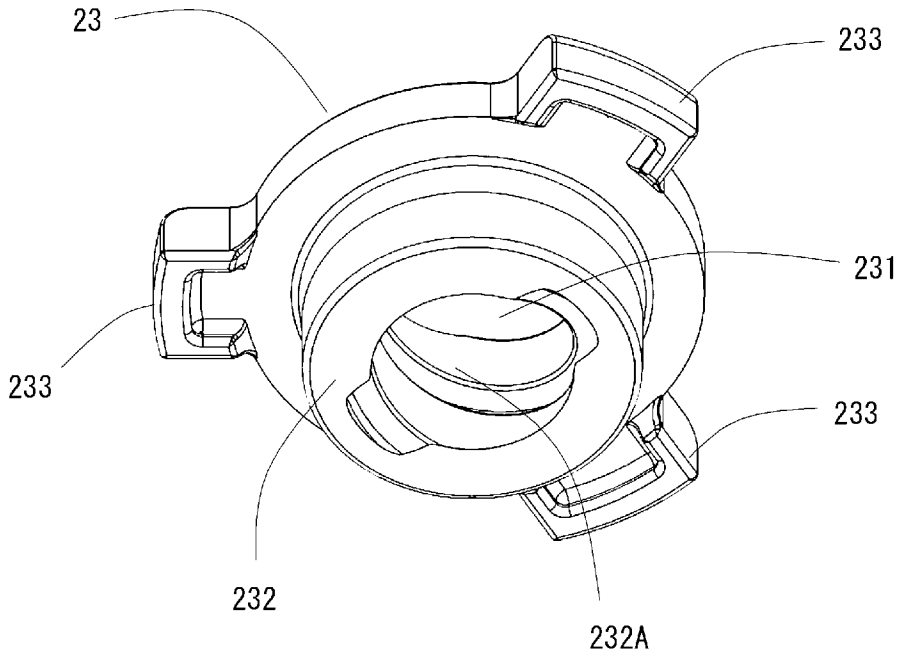
[図24]



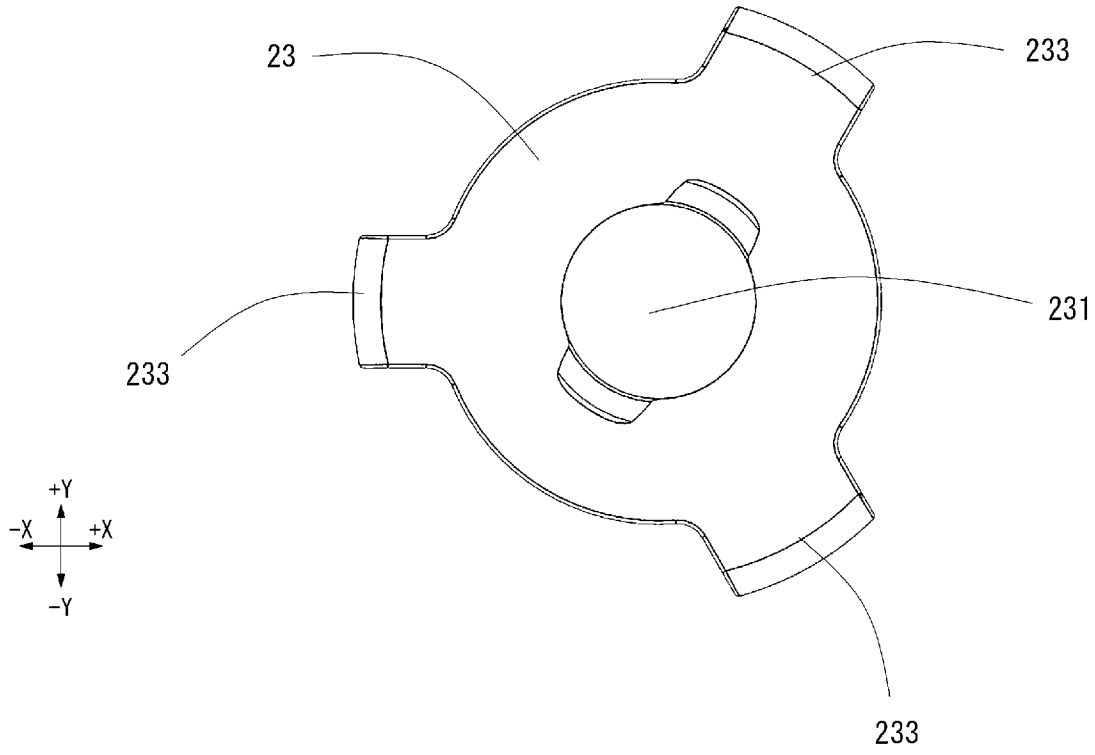
[図25]



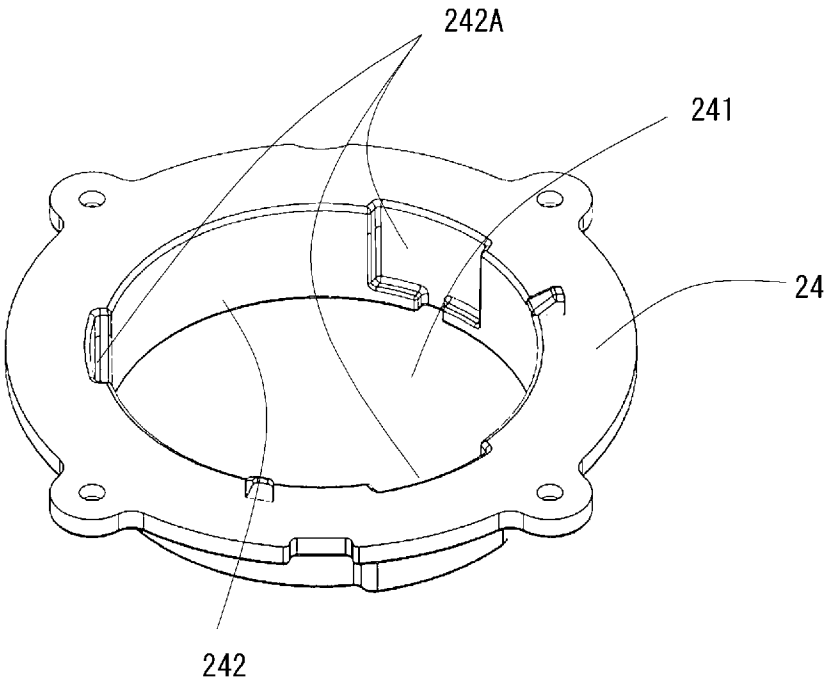
[図26]



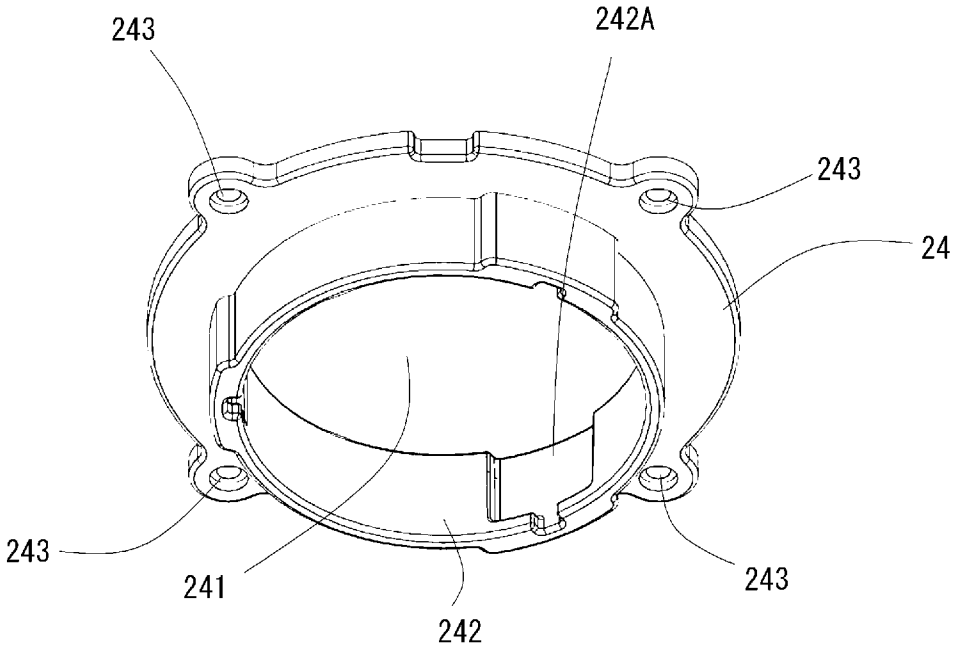
[図27]



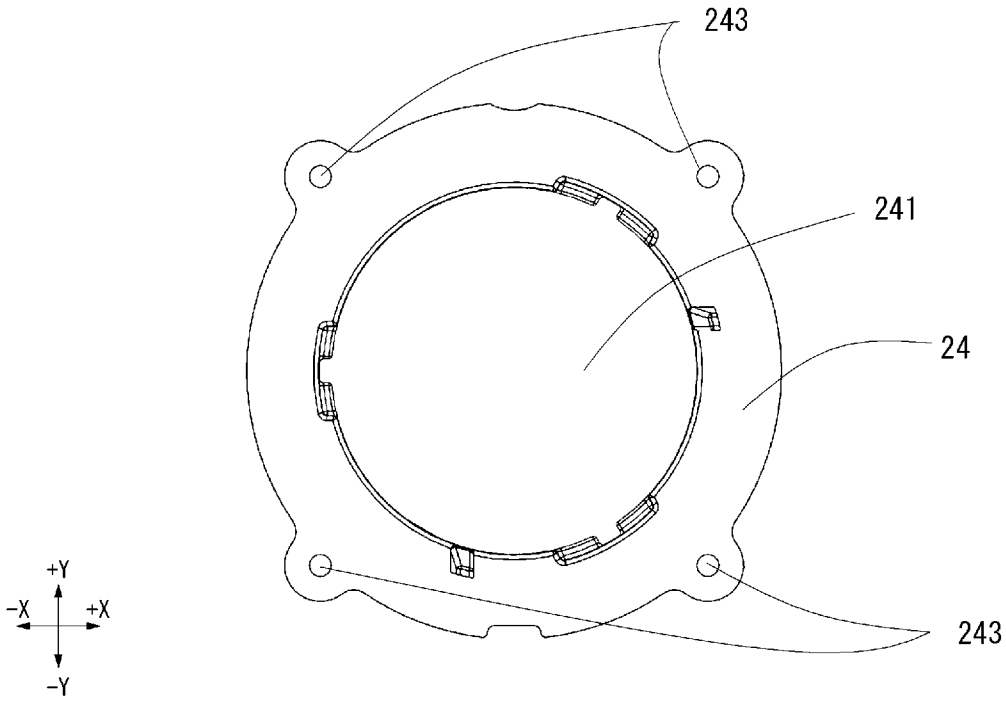
[図28]



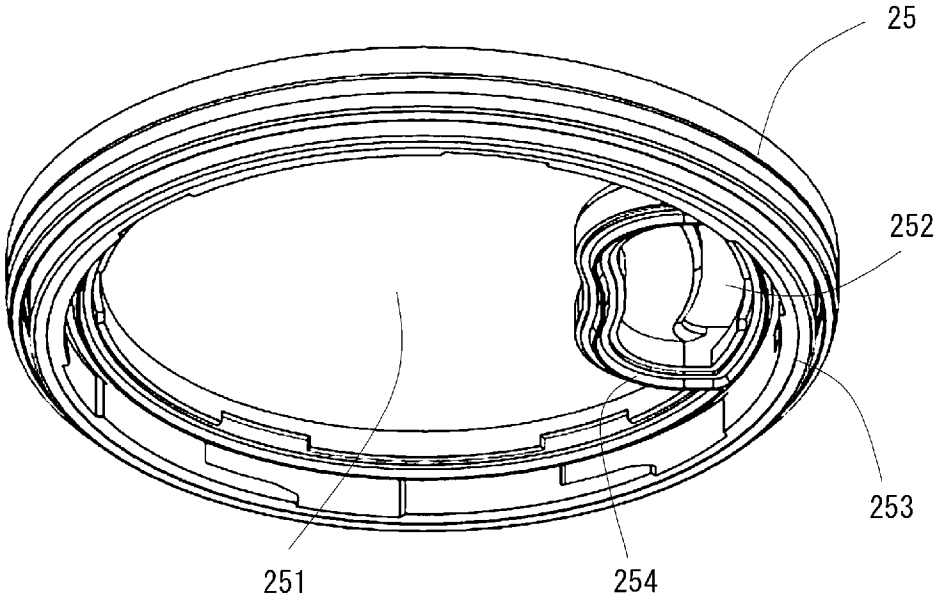
[図29]



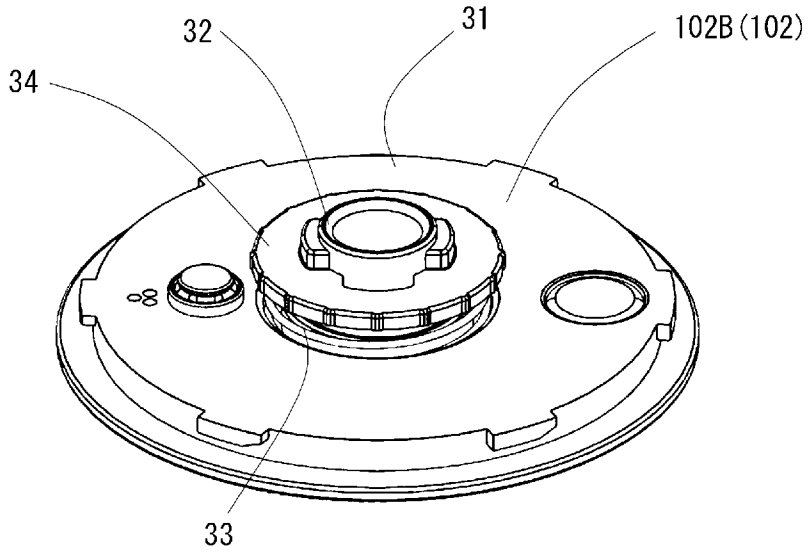
[図30]



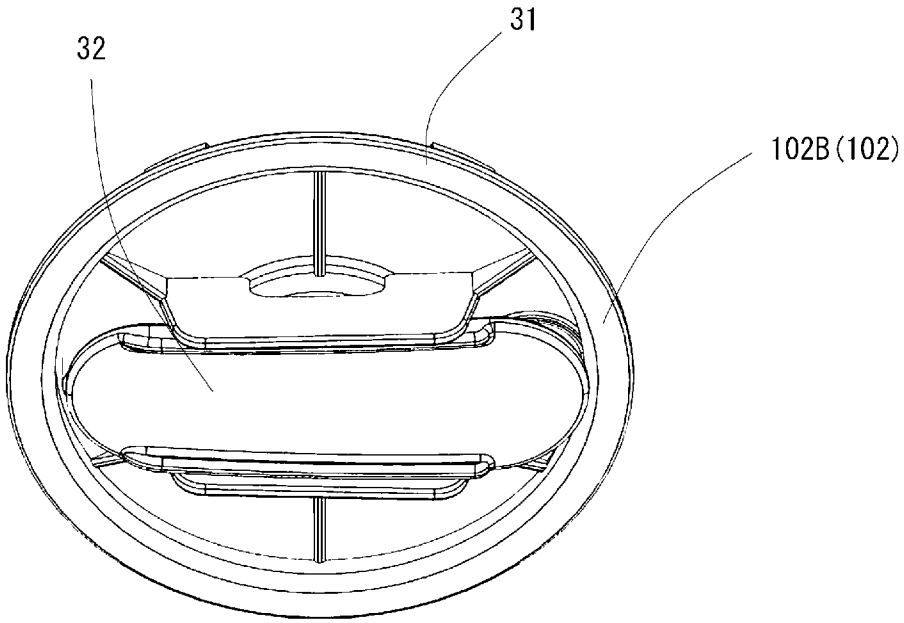
[図31]



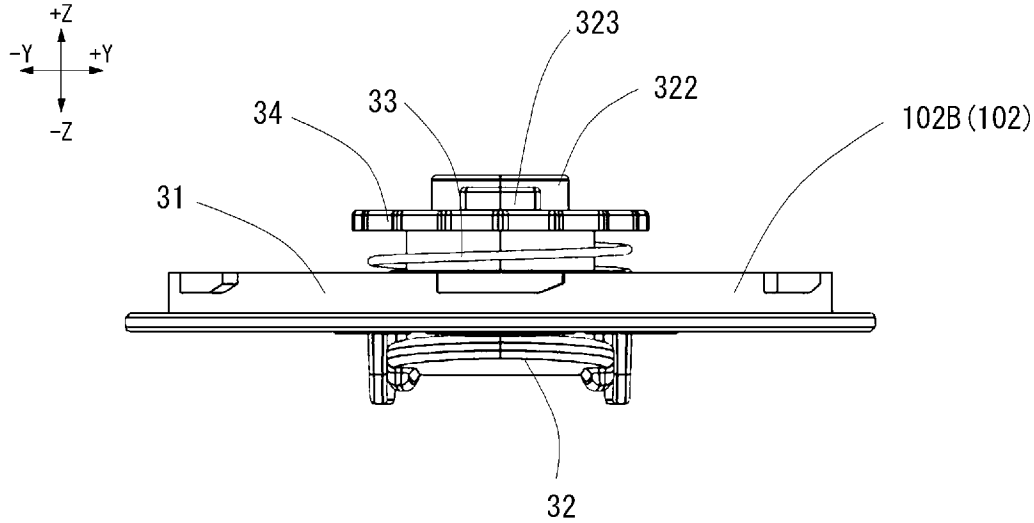
[図32]



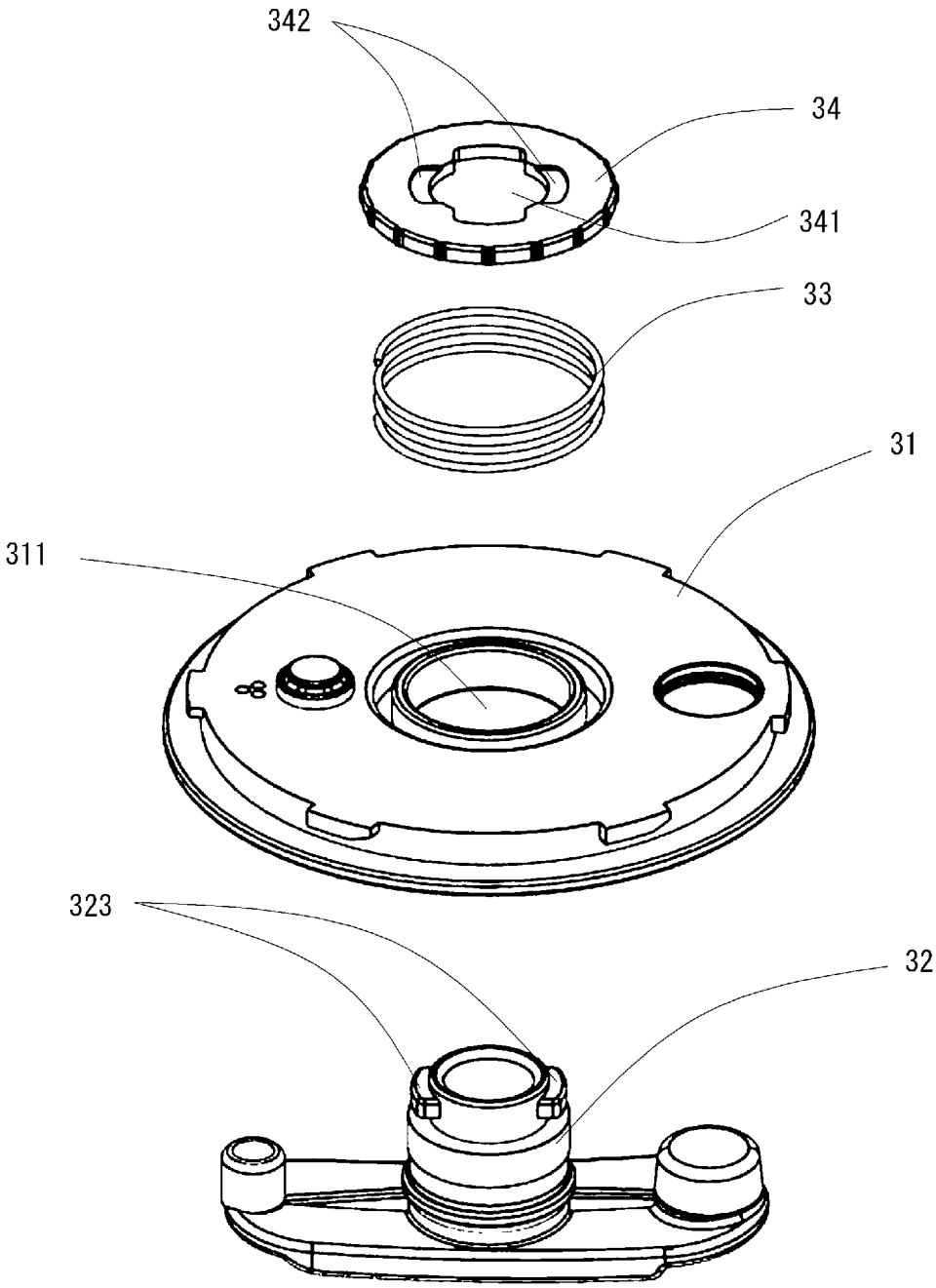
[図33]



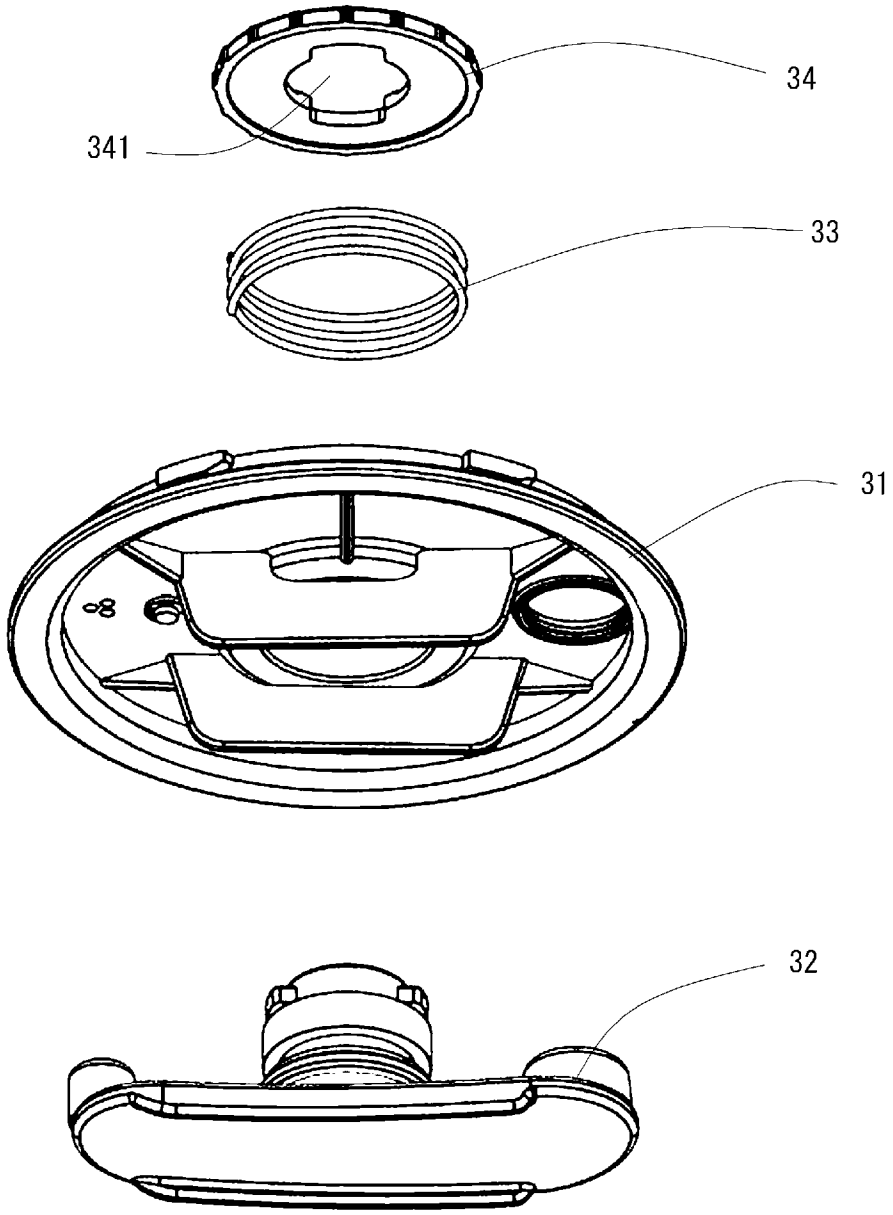
[図34]



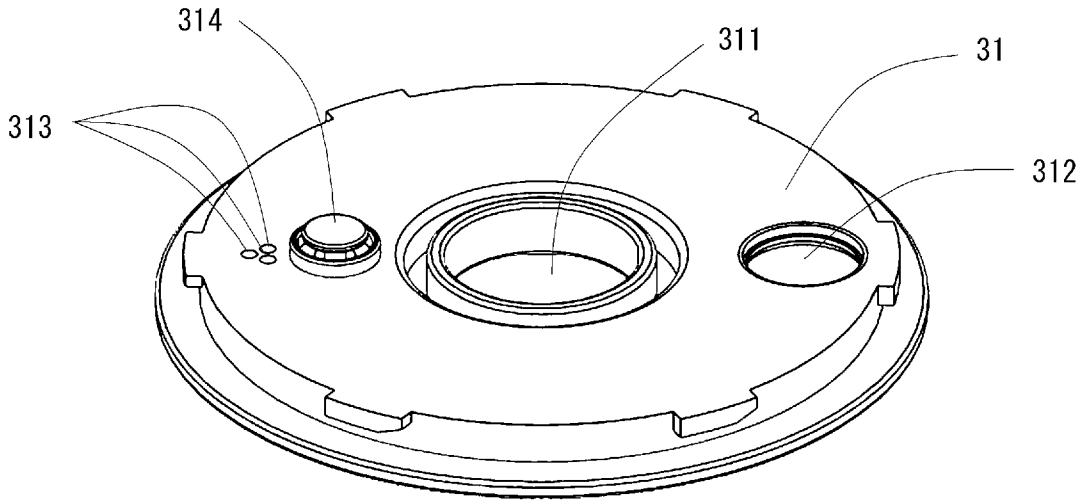
[図35]



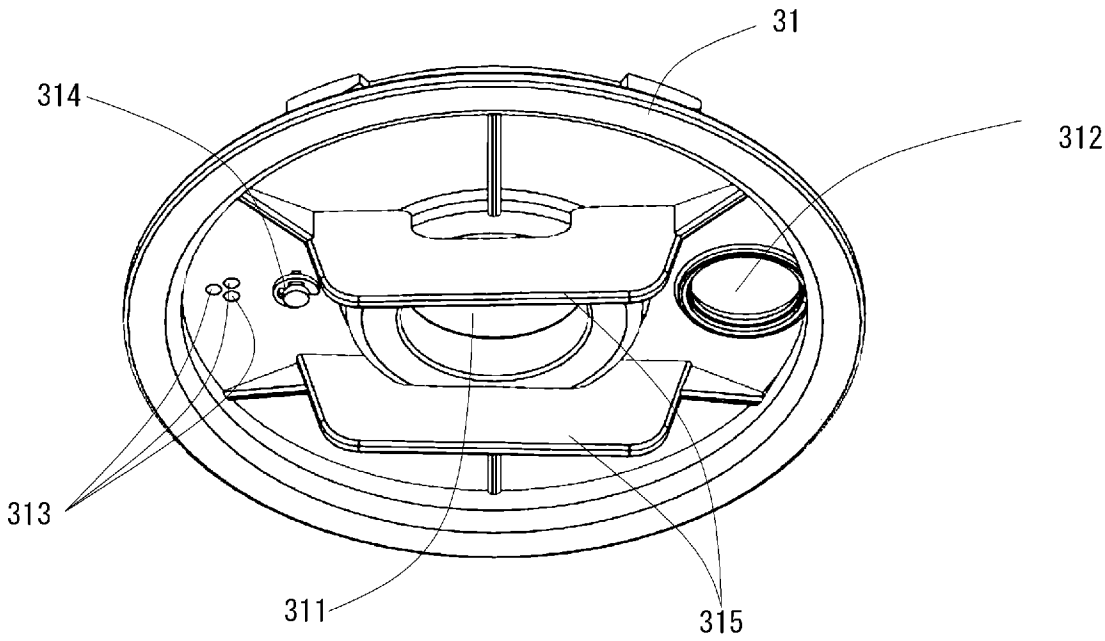
[図36]



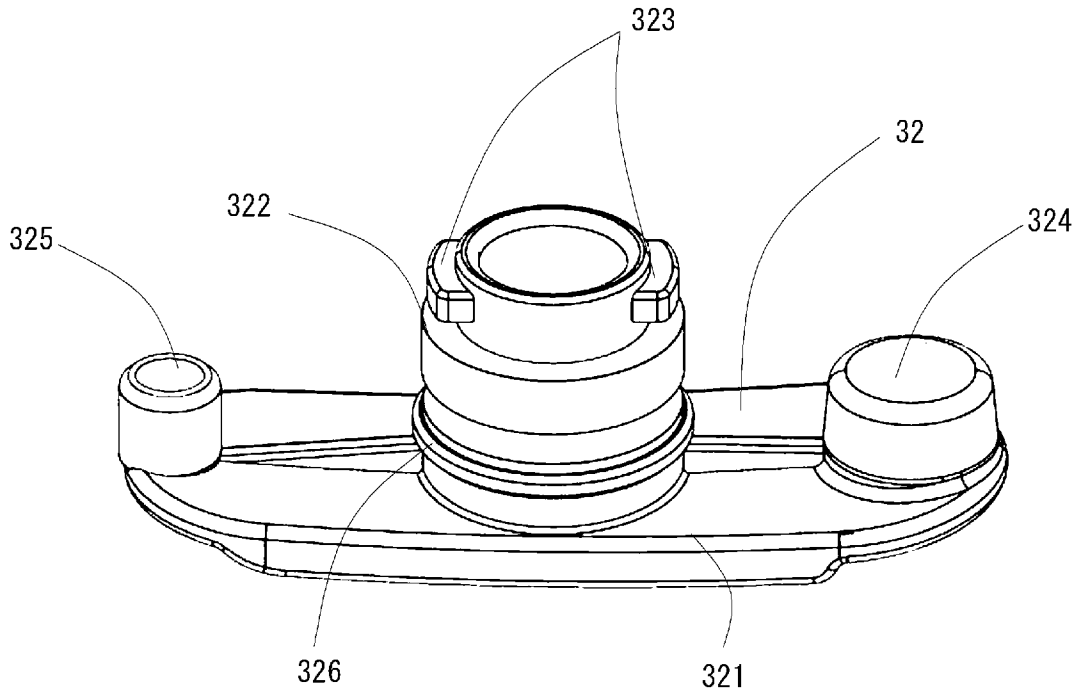
[図37]



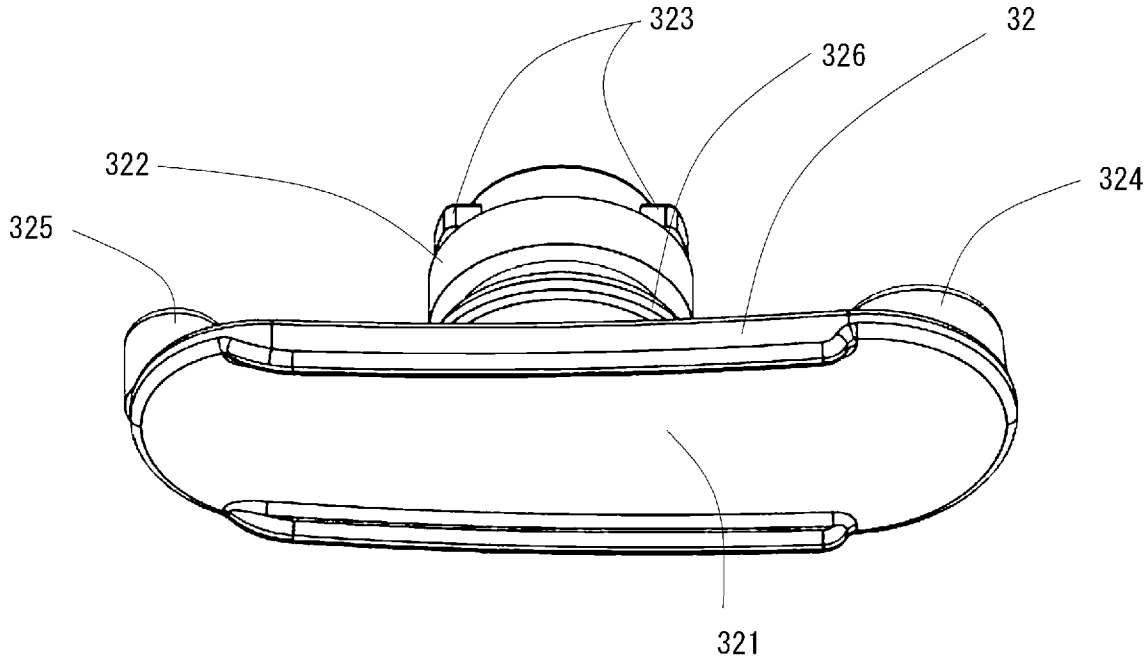
[図38]



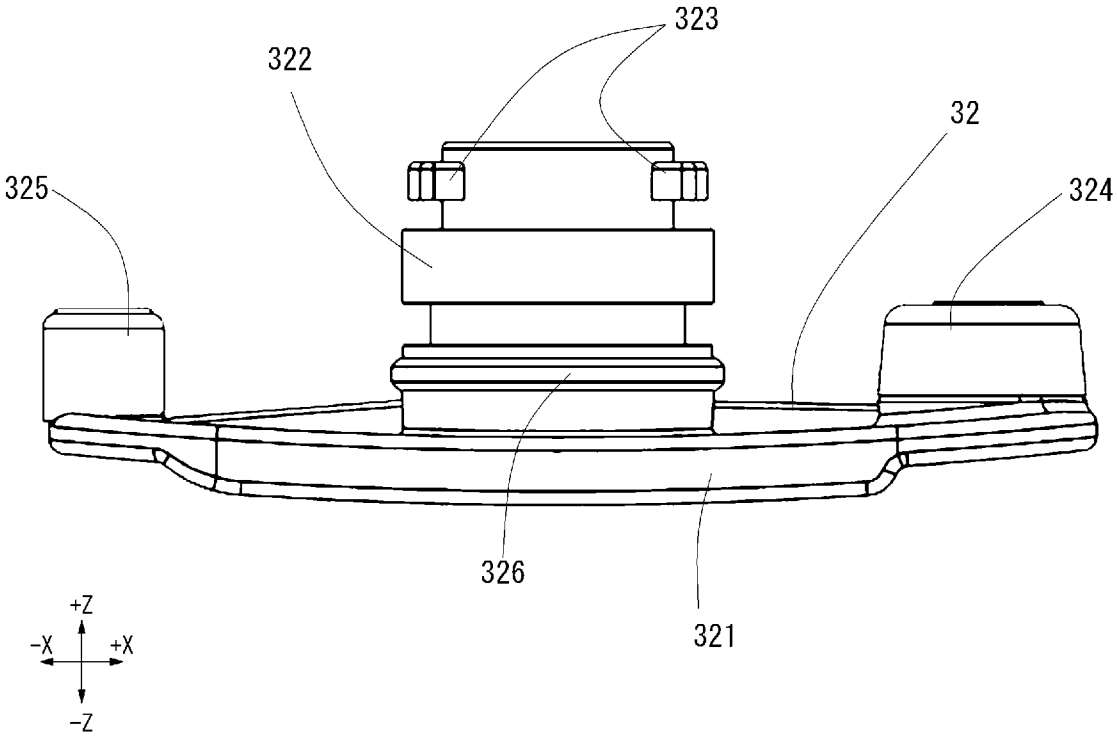
[図39]



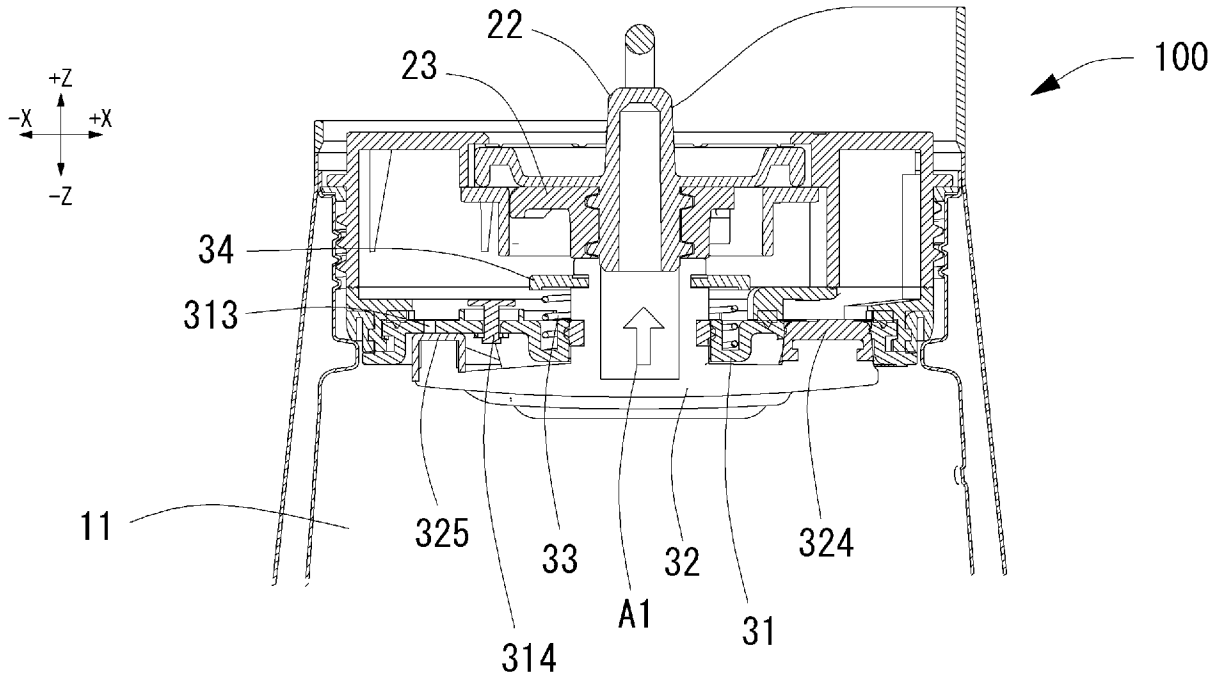
[図40]



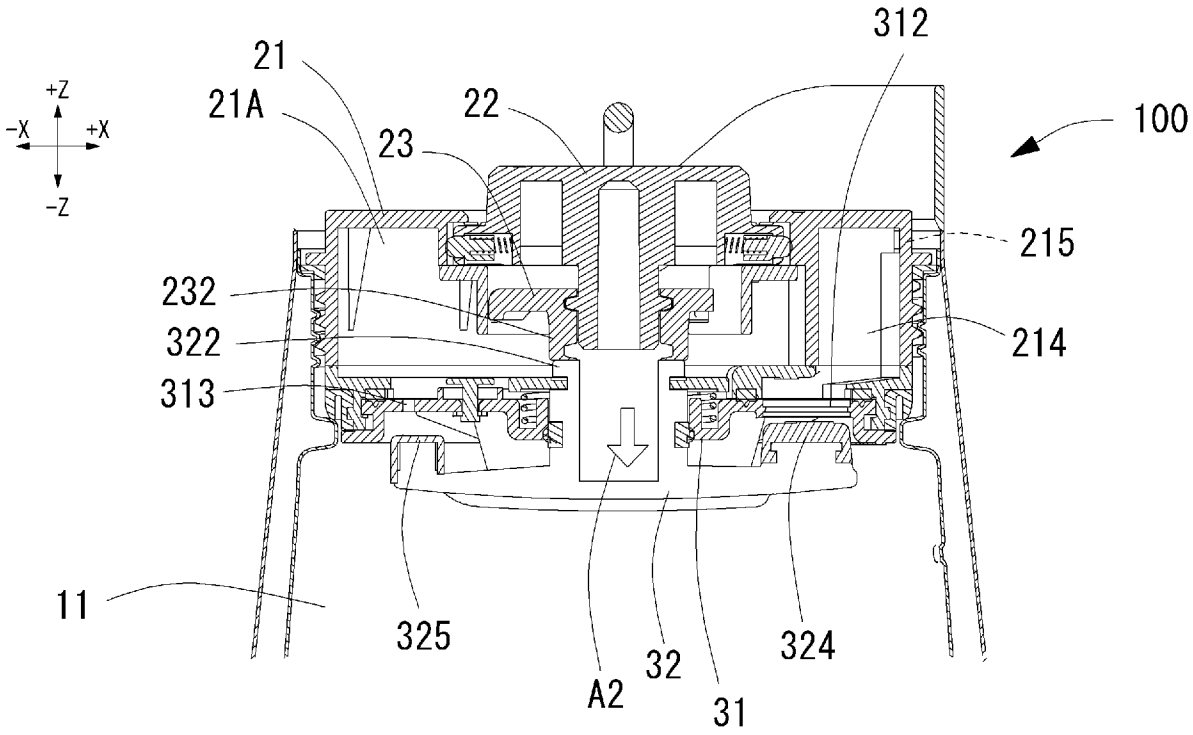
[図41]


323
322
32
325
324
326
321
+Z
-X
+X
-Z

[図42]


22
23
100
+Z
-X
+X
-Z
34
313
11
325
33
32
324
A1
31
314

[図43]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2021/038919

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A47J 41/02(2006.01)i; ***B65D 47/24***(2006.01)i
FI: B65D47/24 100; A47J41/02 103A

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A47J41/02; B65D47/24

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2021
Registered utility model specifications of Japan 1996-2021
Published registered utility model applications of Japan 1994-2021

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	US 2020/0055646 A1 (IGLOO PRODUCTS CORP.) 20 February 2020 (2020-02-20) paragraphs [0031]-[0037], fig. 9-16	1-6
X	JP 2020-171369 A (TIGER VACUUM BOTTLE CO., LTD.) 22 October 2020 (2020-10-22) paragraphs [0036]-[0049], fig. 4-6	1, 4-6
A	US 2018/0065784 A1 (KLEAN KANTEEN INC.) 08 March 2018 (2018-03-08)	1-6

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☑ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
10 December 2021	**28 December 2021**
Name and mailing address of the ISA/JP **Japan Patent Office (ISA/JP)** **3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915** **Japan**	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2021/038919

Patent document cited in search report	Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
US 2020/0055646 A1	20 February 2020	WO 2018/085412 A1	
JP 2020-171369 A	22 October 2020	(Family: none)	
US 2018/0065784 A1	08 March 2018	WO 2016/073632 A1	

国際調査報告

国際出願番号
PCT/JP2021/038919

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

A47J 41/02(2006.01)i; B65D 47/24(2006.01)i
FI: B65D47/24 100; A47J41/02 103A

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

A47J41/02; B65D47/24

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０２１年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０２１年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０２１年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー*	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X	US 2020/0055646 A1 (IGLOO PRODUCTS CORP.) 20.02.2020 (2020-02-20) 段落[0031]-[0037], 図9-16	1-6
X	JP 2020-171369 A (タイガー魔法瓶株式会社) 22.10.2020 (2020-10-22) 段落[0036]-[0049], 図4-6	1,4-6
A	US 2018/0065784 A1 (KLEAN KANTEEN INC.) 08.03.2018 (2018-03-08)	1-6

☐ Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☑ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー
"A" 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
"E" 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
"L" 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
"O" 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
"P" 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
"T" 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
"X" 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
"Y" 特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
"&" 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
10.12.2021	28.12.2021

名称及びあて先
日本国特許庁(ISA/JP)
〒100-8915
日本国
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

権限のある職員（特許庁審査官）
小川　克久 3N 3931
電話番号 03-3581-1101 内線 3361

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号
PCT/JP2021/038919

引用文献	公表日	パテントファミリー文献	公表日
US 2020/0055646 A1	20.02.2020	WO 2018/085412 A1	
JP 2020-171369 A	22.10.2020	（ファミリーなし）	
US 2018/0065784 A1	08.03.2018	WO 2016/073632 A1	